

EUR V11 への移行ガイド

株式会社 日立製作所

はじめに

本書は、次に示す EUR 製品の「EUR V11 への移行ガイド」について説明するものです。本書では特に注意書きがない場合、次の製品を総じて EUR と言い、「Hitachi Report for SVF Series / EUR」を「EUR」に省略する場合があります。

EUR は V11 から Hitachi Report for SVF ブランドへ統合して、製品名称を「EUR」から「Hitachi Report for SVF Series / EUR」に変更します。

<Version 11>

- P-2CD2-5DB4 Hitachi Report for SVF Series / EUR Developer
- P-2CD2-56B4 Hitachi Report for SVF Series / EUR Designer
- P-2CD2-53B4 Hitachi Report for SVF Series / EUR Viewer
- P-2CD2-5LB4 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Client Licens
- P-29D2-5EB4 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise
- P-29D2-59B4 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard
- P-29D2-5CB4 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option
- P-1MD2-5EB1 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise
- P-1MD2-59B1 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard
- P-1MD2-5CB1 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option
- P-1JD2-5EB1 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise
- P-1JD2-59B1 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard
- P-1JD2-5CB1 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option
- P-82D2-5EB1 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise
- P-82D2-59B1 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard
- P-82D2-5CB1 Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option

<対象 OS>

V11 の対応 OS は以下のサイトを参照願います。

帳票ツール EUR V11：製品別の動作環境

<https://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/eur/products/kankyo/env.html>

<<略語表記>>

本資料では、以下の英語略を使用いたします。

英語略	英字での表記
COBOL	COmmon Business Oriented Language
DLL	Dynamic Linking Library
GUI	Graphical User Interface
HTML	HyperText Transfer Protocol
OCX	Ole-based Control eXtension
OLE	Object Linking and Embedding
OS	Operating System
PDF	Portable Document Format
war	Web Application Archive

<商標に対する表示>

- Adobe と Adobe Reader は、米国およびその他の国における Adobe 社の登録商標または商標です。
- SVF および EUR は、ウイングアーク 1 s t 株式会社の登録商標です。
- Linux® is the registered trademark of Linus Torvalds in the U.S. and other countries.
- Oracle®, Java, MySQL 及び NetSuite は、Oracle、その子会社及び関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
- UNIX は、The Open Group の登録商標です。
- Microsoft、ActiveX、Internet Explorer、Microsoft Edge、Windows は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標または登録商標です。

目次

1. V10 から V11 への移行	6
1.1 EUR V10 と EUR V11 の差異	7
1.2 帳票作成機能について	8
1.3 サーバ帳票出力機能／統合印刷管理実行環境について	9
1.4 クライアント帳票出力機能について	13
2. V9 から V11 への移行	15
2.1 uCosminexus EUR V9 と EUR V11 の差異	16
2.2 帳票作成機能について	17
2.3 サーバ帳票出力機能／統合印刷管理実行環境について	18
2.4 クライアント帳票出力機能について	22
3. V8 から V11 への移行	24
3.1 uCosminexus EUR V8 と EUR V11 の差異	25
3.2 帳票作成機能について	27
3.3 サーバ帳票出力機能について	28
3.4 クライアント帳票出力機能について	31
3.5 統合印刷管理実行環境について	33
4. V7 から V11 への移行	37
4.1 EUR V7 と EUR V11 の差異	38
4.2 帳票作成機能について	40
4.3 サーバ帳票出力機能について	41
4.4 クライアント帳票出力機能について	44
4.5 統合印刷管理実行環境について	46
5. V5 から V11 への移行	49
5.1 EUR V5 と EUR V11 の製品体系の差異	50
5.2 帳票作成機能について	52
5.3 サーバ帳票出力機能について	53
5.4 クライアント帳票出力機能について	57
5.5 統合印刷管理実行環境について	60
6. V4 から V11 への移行	63
6.1 EUR V4 と EUR V11 の製品体系の差異	64
6.2 帳票作成機能について	65
6.3 サーバ帳票出力機能について	68
6.4 クライアント帳票出力機能について	72
7. クライアント出力からサーバ出力への移行	76
7.1 クライアント製品からサーバ製品への移行時の注意事項	77

1. V10 から V11 への移行

この章では、V10 の製品から V11 の製品へ移行する時の互換性および注意事項について説明します。

1.1 EUR V10 と EUR V11 の差異

1.1.1 製品体系

表 1-1. バージョン間の製品体系の差異

	EUR V10		EUR V11
開発環境	EUR Designer	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Designer
	EUR Developer	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Developer
サーバ 実行環境 / 統合印刷管 理実行環境	EUR Server Standard	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard
	EUR Server Enterprise	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise
	EUR Server - Cipher option	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option
クライアント 実行環境	EUR Viewer	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Viewer
	EUR Server - Client License	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Client License

1.2 帳票作成機能について

1.2.1 対象製品

- V10 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 1-3. 移行製品

EUR V10		EUR V11
EUR Designer	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Designer
EUR Developer	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Developer

1.2.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V10 の帳票作成機能で作成したフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

1.2.3 移行後の注意事項について

(1) 出力結果の確認について

- V11 に移行後、表示・印刷テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります。

1.2.4 インストールについて

- V10 と V11 は同一マシン上に共存できません。
- V10 から V11 へのバージョンアップは、上書きインストールで行えます。
- 上書きインストールをする場合は、前回インストールしたロケールと同じロケールで実行してください。異なるロケールで上書きインストールした場合、正常にインストールできないことがあります。

1.2.5 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

1.3 サーバ帳票出力機能／統合印刷管理実行環境について

1.3.1 対象製品

- V10 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 1-4. 移行製品

EUR V10		EUR V11
EUR Server Standard	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard
EUR Server Enterprise	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise
EUR Server - Cipher option	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option

1.3.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V10 のサーバ帳票出力で使用していたフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

1.3.3 Adobe Flash Player サポート終了に伴う変更点について

(1) 帳票管理 GUI サービスについて

- 帳票管理 GUI サービスを使用している場合で、かつ、帳票管理 GUI の Web/AP サーバとして、EUR Application Service を使用していない場合は、帳票管理 GUI サービスプログラム(eurpmrsgui.ear)の Web/AP サーバへの再登録が必要となります。
war 形式を使用する場合は、eurpmrsgui.ear から war 形式のファイルを取り出してください。
- EUR Application Service を使用している場合は、自動で登録されるため再登録手順は不要です。
- 帳票管理 GUI を利用する Web クライアントに V10 では、Adobe Flash Player 12 以降が必要でしたが、V11 からは不要となります。
- 帳票管理 GUI は画面仕様を変更したことにより、見た目が異なる場合がありますが、操作性につきましてはおおむね変更はありません。
詳細は資料「帳票管理 GUI の HTML 化による Flash 版との相違点」を参照願います。
- V11 で使用できる Web ブラウザは、次の通りです。
 - 32 ビット版の Internet Explorer 11
 - Microsoft Edge(Chromium 版)の IE モード

1.3.4 起動インタフェースの互換性について

V11 の起動インタフェースは V10 と互換性があります。

(1) コマンドの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V10 と互換性があります。
V10 の eurpmc コマンド、eurpmlsc コマンド、eurpmcepfviewer コマンドおよび eursmpr コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。

(2) ActiveX 起動部品の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V10 と互換性があります。
V10 の ActiveX 起動部品で指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(3) Java 起動部品の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V10 と互換性があります。
V10 の Java 起動部品で指定していたメソッドは、V11 でもそのまま使用できます。

(4) COBOL 起動部品の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V10 と互換性があります。
V10 の COBOL 起動部品で指定していた関数とパラメータは、V11 でもそのまま使用できます。

(5) EUR Web Plug-In について

- V11 の起動インタフェースは V10 と互換性があります。
V10 で、HTML の<object>タグに指定していたパラメータ、メソッドおよびプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。
- V11 で使用できる Web ブラウザは、次の通りです。
32 ビット版の Internet Explorer 11
Microsoft Edge(Chromium 版)の IE モード
(Microsoft 社は、Internet Explorer 11 のサポートを 2022 年に終了しました。また、Microsoft Edge の IE モードは少なくとも 2029 年までサポートされると発表していますが、IE モードのサポートも終了した場合、「EUR Web Plug-In」は使用できなくなります。そのため、今後は「EUR Web Plug-In」の使用をお勧めしません。)

(6) 配送サービスについて

- 配送サービスを使用している場合で、かつ、配送サービスの Web/AP サーバとして、EUR Application Service を使用していない場合は、配送サービスプログラム(eurssdeli.ear)の Web/AP サーバへの再登録が必要となります。
war 形式を使用する場合は、eurssdeli.ear から war 形式のファイルを取り出してください。
- EUR Application Service を使用している場合は、自動で登録されるため再登録手順は不要です。

1.3.5 起動インタフェース (V8 互換機能) の互換性について

V9 以降のサーバ実行環境では、起動インタフェースを「EUR Server – Adapter (コマンド、Java、ActiveX、COBOL)」として提供します。

新たに開発するプログラムでは EUR Server - Adapter の使用をおすすめしますが、V8 以前の起動インタフェースも互換機能として利用できます。

(1) コマンドの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V10 と互換性があります。
V10 の eurss コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。

(2) ActiveX 起動インタフェースの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V10 と互換性があります。
V10 の ActiveX 起動部品で指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(3) JavaBeans 起動部品の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V10 と互換性があります。
V10 の JavaBeans 起動部品で指定していたメソッドは、V11 でもそのまま使用できます。

1.3.6 EUR 形式ファイルの互換性について

- V11 のサーバ製品で生成した EUR 形式ファイルは、V10 のクライアント製品でも表示／印刷を行いますので、サーバ製品だけのバージョンアップも可能です。
ただし、EUR 形式ファイルをクライアントで表示／印刷できるかどうかは、EUR 形式ファイルに含まれる帳票定義ファイル(*.fms)のバージョンに依存しますので、V10 のクライアント製品を使用する場合は V10 以前で作成した帳票定義ファイル(*.fms)で EUR 形式ファイルを生成してください。

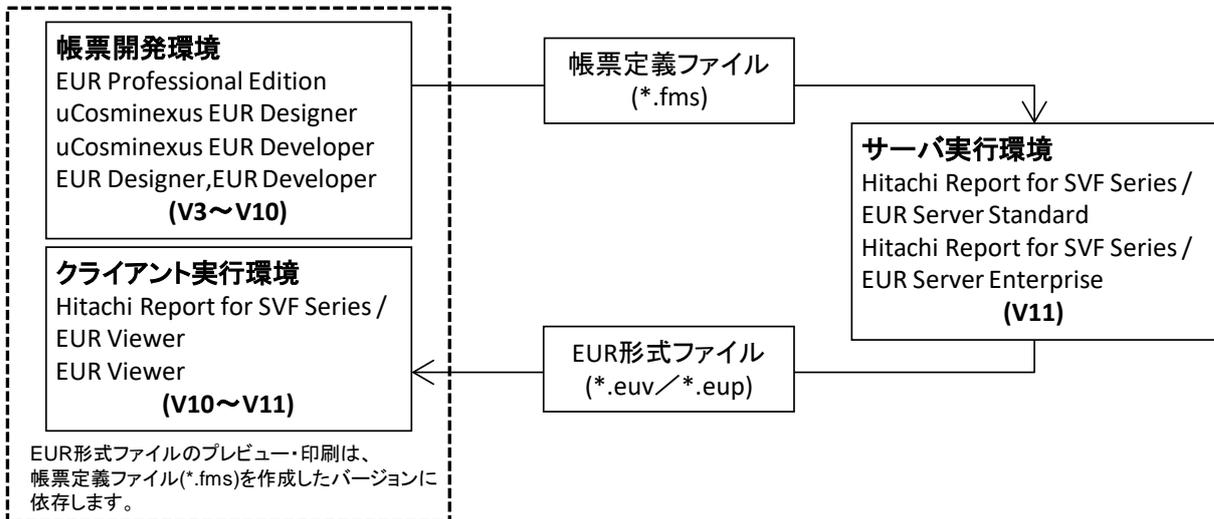


図 1-1. クライアントとサーバのバージョンの組み合わせ

1.3.7 EPF 形式ファイルの互換性について

- V10 で生成した EPF 形式ファイルは V11 でも印刷やプレビューが可能です。
- V10 で蓄積した帳票は、V11 でも印刷やプレビューが可能です。

1.3.8 移行後の注意事項について

(1) 出力結果の確認について

- V11 に移行後、出力テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります。

1.3.9 インストールについて

- V10 と V11 は同一マシン上に共存できません。
- V10 から V11 へのバージョンアップは、上書きインストールで行えます。
- 上書きインストールをする場合は、前回インストールしたロケールと同じロケールで実行してください。異なるロケールで上書きインストールした場合、正常にインストールできないことがあります。
- 環境設定ファイル(EURPS_ENV または eurps_env)とプリンタ定義ファイル(printerinf)を作成していた場合はファイルをバックアップし、V11 の環境に移行してください。
- V10 で作成した環境設定ファイル(*.ini)およびプリンタクラス定義ファイルなどの定義ファイル(*.conf)はバックアップを取り、V11 の環境へ移行してください。

1.3.10 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。
ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

1.4 クライアント帳票出力機能について

1.4.1 対象製品

- V10 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。



1.4.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V10 のクライアント帳票出力で使用していたフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

1.4.3 EUR 形式ファイルの互換性について

- V10 で生成した EUR 形式ファイルは V11 でも印刷やプレビューが可能です。

1.4.4 起動インタフェースの互換性について

V9 以降のクライアント実行環境では、起動インタフェースをコマンドおよび OLE オートメーションとして提供します。

新たに開発するプログラムではコマンドまたは OLE オートメーションの使用をおすすめしますが、V8 以前の起動インタフェース（OCX および DLL インタフェース関数）も互換機能として利用できます。

(1) コマンドの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V10 と互換性があります。
V10 の aprprt コマンドおよび eurer コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。

(2) OLE オートメーションの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V10 と互換性があります。
V10 の OLE オートメーションで指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(3) OCX (V8 互換機能) の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V10 と互換性があります。
V10 の OCX で指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(4) DLL インタフェース関数 (V8 互換機能) の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V10 と互換性があります。
V10 の DLL インタフェース関数で指定していたキーワードは、V11 でもそのまま使用できます。

1.4.5 移行後の注意事項について

(1) 出力結果の確認について

- V11 に移行後、出力テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります。

1.4.6 インストールについて

- V10 と V11 は同一マシン上に共存できません。
- V10 から V11 へのバージョンアップは、上書きインストールで行えます。
- 環境設定ファイル (EUR_ENV) とプリンタ定義ファイル (printerinf) を作成していた場合、上書きインストールしても上書きされずインストールする前の情報がそのまま残ります。
- 上書きインストールをする場合は、前回インストールしたロケールと同じロケールで実行してください。異なるロケールで上書きインストールした場合、正常にインストールできないことがあります。

1.4.7 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。
ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

2. V9 から V11 への移行

この章では、V9 の製品から V11 の製品へ移行する時の互換性および注意事項について説明します。

2.1 uCosminexus EUR V9 と EUR V11 の差異

2.1.1 製品体系

- 従来、uCosminexus EUR Server Print Edition で提供していたサーバ帳票印刷専用の製品は、V11 ではご用意しておりませんので、V11 の新規ご購入をお願いいたします。V11 を新規導入する場合は、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard、または、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のご検討をお願いいたします。

表 2-1. バージョン間の製品体系の差異

	uCosminexus EUR V9		EUR V11
開発環境	uCosminexus EUR Designer	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Designer
	uCosminexus EUR Developer	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Developer

	uCosminexus EUR V9		EUR V11
サーバ 実行環境	uCosminexus EUR Server Print Edition		(*1)
	uCosminexus EUR Server Standard	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard
統合印刷管 理実行環境	uCosminexus EUR Server Enterprise	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise
	uCosminexus EUR Server - Cipher option	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option

(*1) 従来、uCosminexus EUR Server Print Edition で提供していたサーバ帳票印刷専用の製品は、V11 ではご用意しておりませんので、V11 の新規ご購入をお願いいたします。V11 を新規導入する場合は、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard、または、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のご検討をお願いいたします。

	uCosminexus EUR V9		EUR V11
クライア ント実行環境	uCosminexus EUR Viewer	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Viewer
	uCosminexus EUR Server - Client License	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Client License

2.2 帳票作成機能について

2.2.1 対象製品

- V9 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 2-2. 移行製品

uCosminexus EUR V9		EUR V11
uCosminexus EUR Designer	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Designer
uCosminexus EUR Developer	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Developer

2.2.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V9 の帳票作成機能で作成したフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

2.2.3 移行後の注意事項について

(1) 出力結果の確認について

- V11 に移行後、表示・印刷テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります。

2.2.4 インストールについて

- V9 と V11 は同一マシン上に共存できません。
- V9 から V11 へのバージョンアップは、上書きインストールで行えます。
- 上書きインストールをする場合は、前回インストールしたロケールと同じロケールで実行してください。異なるロケールで上書きインストールした場合、正常にインストールできないことがあります。
- V9 をアンインストールするとインストールフォルダ下のサンプル格納フォルダ(Sample)が削除されます。
V11 への移行前にアンインストールをする場合は、Sample フォルダに保存したフォームシートファイルやデータは必ずバックアップアップをとってください。

2.2.5 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。
ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

2.3 サーバ帳票出力機能／統合印刷管理実行環境について

2.3.1 対象製品

- V9 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 2-3. 移行製品

uCosminexus EUR V9		EUR V11
uCosminexus EUR Server Print Edition		(*1)
uCosminexus EUR Server Standard	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard
uCosminexus EUR Server Enterprise	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise
uCosminexus EUR Server - Cipher option	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option

(*1) 従来、uCosminexus EUR Server Print Edition で提供していたサーバ帳票印刷専用の製品は、V11 ではご用意しておりませんので、V11 の新規ご購入をお願いいたします。
V11 を新規導入する場合は、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard、または、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のご検討をお願いいたします。

2.3.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V9 のサーバ帳票出力で使用していたフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

2.3.3 Adobe Flash Player サポート終了に伴う変更点について

(1) 帳票管理 GUI サービスについて

- 帳票管理 GUI サービスを使用している場合で、かつ、帳票管理 GUI の Web/AP サーバとして、EUR Application Service を使用していない場合は、帳票管理 GUI サービスプログラム(eurpmrsgui.ear)の Web/AP サーバへの再登録が必要となります。
war 形式を使用する場合は、eurpmrsgui.ear から war 形式のファイルを取り出してください。
- EUR Application Service を使用している場合は、自動で登録されるため再登録手順は不要です。
- 帳票管理 GUI を利用する Web クライアントに V9 では、Adobe Flash Player 10 以降が必要でしたが、V11 からは不要となります。
- 帳票管理 GUI は画面仕様を変更したことにより、見た目が異なる場合がありますが、操作性につきましてはおおむね変更はありません。
詳細は資料「帳票管理 GUI の HTML 化による Flash 版との相違点」を参照願います。
- V11 で使用できる Web ブラウザは、次の通りです。
 - 32 ビット版の Internet Explorer 11
 - Microsoft Edge(Chromium 版)の IE モード

2.3.4 起動インタフェースの互換性について

V11 の起動インタフェースは V9 と互換性があります。

(1) コマンドの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V9 と互換性があります。
V9 の eurpmc コマンド、eurpmlsc コマンド、eurpmcepfviewer コマンドおよび eursmpr コマンドで指

定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。

(2) ActiveX 起動部品の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V9 と互換性があります。
V9 の ActiveX 起動部品で指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(3) Java 起動部品の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V9 と互換性があります。
V9 の Java 起動部品で指定していたメソッドは、V11 でもそのまま使用できます。

(4) COBOL 起動部品の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V9 と互換性があります。
V9 の COBOL 起動部品で指定していた関数とパラメタは、V11 でもそのまま使用できます。

(5) EUR Web Plug-In について

- V11 の起動インタフェースは V9 と互換性があります。
V9 で、HTML の<object>タグに指定していたパラメタ、メソッドおよびプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。
- V11 で使用できる Web ブラウザは、次の通りです。
32 ビット版の Internet Explorer 11
Microsoft Edge(Chromium 版)の IE モード
(Microsoft 社は、Internet Explorer 11 のサポートを 2022 年に終了しました。また、Microsoft Edge の IE モードは少なくとも 2029 年までサポートされると発表していますが、IE モードのサポートも終了した場合、「EUR Web Plug-In」は使用できなくなります。そのため、今後は「EUR Web Plug-In」の使用をお勧めしません。)

(6) 配送サービスについて

- 配送サービスを使用している場合で、かつ、配送サービスの Web/AP サーバとして、EUR Application Service を使用していない場合は、配送サービスプログラム(eurssdeli.ear)の Web/AP サーバへの再登録が必要となります。
war 形式を使用する場合は、eurssdeli.ear から war 形式のファイルを取り出してください。
- EUR Application Service を使用している場合は、自動で登録されるため再登録手順は不要です。

2.3.5 起動インタフェース (V8 互換機能) の互換性について

V9 以降のサーバ実行環境では、起動インタフェースを「EUR Server - Adapter (コマンド、Java、ActiveX、COBOL)」として提供します。

新たに開発するプログラムでは EUR Server - Adapter の使用をおすすめしますが、V8 以前の起動インタフェースも互換機能として利用できます。

(1) コマンドの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V9 と互換性があります。
V9 の eurss コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。

(2) ActiveX 起動インタフェースの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V9 と互換性があります。
V9 の ActiveX 起動部品で指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(3) JavaBeans 起動部品の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V9 と互換性があります。
V9 の JavaBeans 起動部品で指定していたメソッドは、V11 でもそのまま使用できます。

2.3.6 EUR 形式ファイルの互換性について

- V11 のサーバ製品で生成した EUR 形式ファイルは、V9 のクライアント製品でも表示／印刷を行えますので、サーバ製品だけのバージョンアップも可能です。
ただし、EUR 形式ファイルをクライアントで表示／印刷できるかどうかは、EUR 形式ファイルに含まれる帳票定義ファイル(*.fms)のバージョンに依存しますので、V9 のクライアント製品を使用する場合は V9 以前で作成した帳票定義ファイル(*.fms)で EUR 形式ファイルを生成してください。

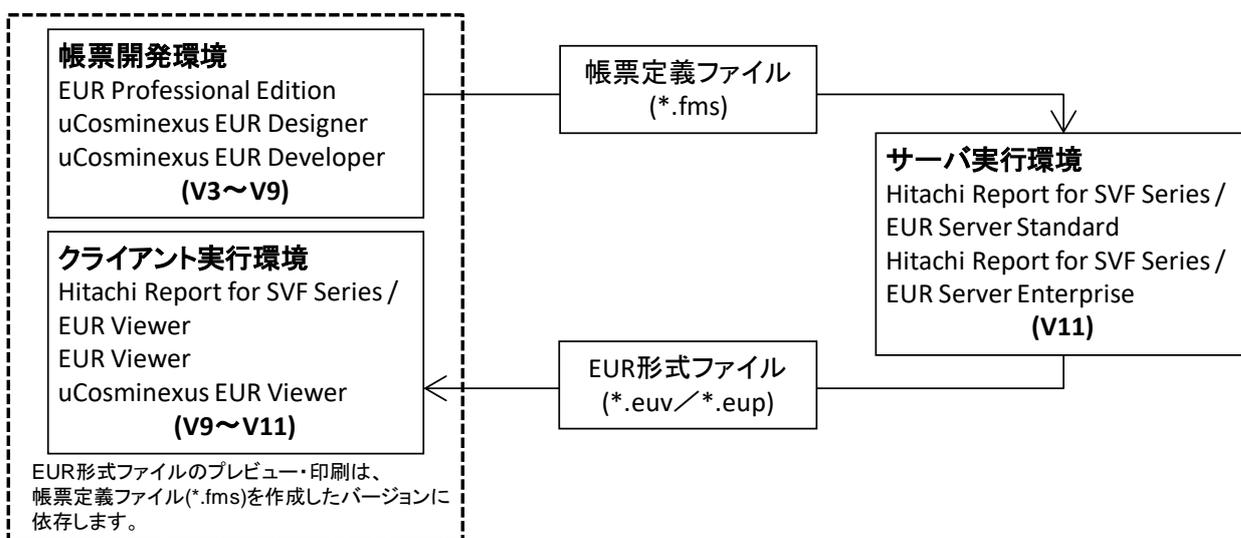


図 2-1. クライアントとサーバのバージョンの組み合わせ

2.3.7 EPF 形式ファイルの互換性について

- V9 で生成した EPF 形式ファイルは V11 でも印刷やプレビューが可能です。
- V9 で蓄積した帳票は、V11 でも印刷やプレビューが可能です。

2.3.8 移行後の注意事項について

(1) 出力結果の確認について

- V11 に移行後、出力テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります。

2.3.9 インストールについて

- V9 と V11 は同一マシン上に共存できません。
- V9 から V11 へのバージョンアップは、上書きインストールで行えます。
- 上書きインストールをする場合は、前回インストールしたロケールと同じロケールで実行してください。異なるロケールで上書きインストールした場合、正常にインストールできないことがあります。

- す。
- 環境設定ファイル(EURPS_ENV または eurps_env)とプリンタ定義ファイル(printerinf)を作成していた場合はファイルをバックアップし、V11 の環境に移行してください。
 - V9 で作成した環境設定ファイル(*.ini)およびプリンタクラス定義ファイルなどの定義ファイル(*.conf)はバックアップを取り、V11 の環境へ移行してください。

2.3.10 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。
ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

2.4 クライアント帳票出力機能について

2.4.1 対象製品

- V9 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 2-4. 移行製品

uCosminexus EUR V9	→	EUR V11
uCosminexus EUR Viewer		Hitachi Report for SVF Series / EUR Viewer

2.4.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V9 のクライアント帳票出力で使用していたフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

2.4.3 EUR 形式ファイルの互換性について

- V9 で生成した EUR 形式ファイルは V11 でも印刷やプレビューが可能です。

2.4.4 起動インタフェースの互換性について

V9 以降のクライアント実行環境では、起動インタフェースをコマンドおよび OLE オートメーションとして提供します。

新たに開発するプログラムではコマンドまたは OLE オートメーションの使用をおすすめしますが、V8 以前の起動インタフェース（OCX および DLL インタフェース関数）も互換機能として利用できます。

(1) コマンドの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V9 と互換性があります。
V9 の aprprt コマンドおよび eurer コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。

(2) OLE オートメーションの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V9 と互換性があります。
V9 の OLE オートメーションで指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(3) OCX (V8 互換機能) の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V9 と互換性があります。
V9 の OCX で指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(4) DLL インタフェース関数 (V8 互換機能) の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V9 と互換性があります。
V9 の DLL インタフェース関数で指定していたキーワードは、V11 でもそのまま使用できます。

2.4.5 移行後の注意事項について

(1) 出力結果の確認について

- V11 に移行後、出力テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります。

2.4.6 インストールについて

- V9 と V11 は同一マシン上に共存できません。
- V9 から V11 へのバージョンアップは、上書きインストールで行えます。
- 環境設定ファイル (EUR_ENV) とプリンタ定義ファイル (printerinf) を作成していた場合、上書きインストールしても上書きされずインストールする前の情報がそのまま残ります。
- 上書きインストールをする場合は、前回インストールしたロケールと同じロケールで実行してください。異なるロケールで上書きインストールした場合、正常にインストールできないことがあります。

2.4.7 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。
ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

3.V8 から V11 への移行

この章では、V8 の製品から V11 の製品へ移行する時の互換性および注意事項について説明します。

3.1 uCosminexus EUR V8 と EUR V11 の差異

3.1.1 製品体系

- V11 では「サーバ実行環境」および「統合印刷管理実行環境」を統合し、新しい製品体系になりました。
- 従来、uCosminexus EUR Print Manager – Report Server で提供していた拠点サーバ機能を、V11 では Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のスプールサーバ機能として提供し、システム形態に合わせて自由に配置できるようになりました。大規模システムへの拡張が容易になります。
- 従来、uCosminexus EUR Print Manager で提供していたクライアントライセンス（1CPU ライセンスにつき 100 クライアントライセンス）が、V11 では 1CPU ライセンスあたり 1,000 クライアントライセンスに増加しました。利用ユーザの拡大に柔軟に対応します。
- 従来、uCosminexus EUR Print Service で提供していたサーバ帳票印刷専用の製品は、V11 ではご用意しておりませんので、V11 の新規ご購入をお願いいたします。V11 を新規導入する場合は、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard、または、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のご検討をお願いいたします。

表 3-1. バージョン間の製品体系の差異

	uCosminexus EUR V8		EUR V11
開発環境	uCosminexus EUR Designer	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Designer
	uCosminexus EUR Developer	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Developer (*1)

(*1) 統合開発環境です。

Hitachi Report for SVF Series / EUR Designerに加え、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise の機能を利用したテストまで行えます。

	uCosminexus EUR V8		EUR V11
サーバ 実行環境 / 統合印刷管 理実行環境	uCosminexus EUR Print Service		(*2)
	uCosminexus EUR Print Service	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard (*3)
	uCosminexus EUR Print Manager		
	uCosminexus EUR Print Service Enterprise	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard (*3)
	uCosminexus EUR Print Manager		
	uCosminexus EUR Print Service Enterprise		
	uCosminexus EUR Print Manager	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise (*3) (*4)
	uCosminexus EUR Print Manager - Report Server		
	uCosminexus EUR Print Service - Cipher option	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option

(*2) 従来、uCosminexus EUR Print Service で提供していたサーバ帳票印刷専用の製品は、V11 ではご用意しておりませんので、V11 の新規ご購入をお願いいたします。

V11 を新規導入する場合は、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard、または、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のご検討をお願いいたします。

(*3) 1CPU ライセンスにつき、1,000 クライアントライセンスを含みます。

(*4) uCosminexus EUR Print Manager - Report Server で提供していた拠点サーバ機能は、V11 ではスプールサーバ機能として提供します。
また、スプールサーバ機能は配布フリーで何台でもインストールできます。

	uCosminexus EUR V8		EUR V11
クライアント 実行環境	uCosminexus EUR Viewer	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Viewer
	uCosminexus EUR Print Manager - Client Access License	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Client License

3.2 帳票作成機能について

3.2.1 対象製品

- V8 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 3-2. 移行製品

uCosminexus EUR V8		EUR V11
uCosminexus EUR Designer	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Designer
uCosminexus EUR Developer	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Developer

3.2.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V8 の帳票作成機能で作成したフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

3.2.3 移行後の注意事項について

(1) 出力結果の確認について

- V11 に移行後、表示・印刷テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります。

3.2.4 インストールについて

- V8 と V11 は同一マシン上に共存できません。
- V8 から V11 へのバージョンアップは、上書きインストールで行えます。
- V11 では、デフォルトのインストール先を以下のフォルダに変更しました。
C:¥Program Files¥HITACHI¥EUR
- V8 と V11 ではインストール後のフォルダ構成が変わります。作成したフォームシートファイルなどを、V8 のインストールフォルダ下に保存して使用している場合は、バックアップをとって V11 の環境に移行してください。
- 上書きインストールをする場合は、前回インストールしたロケールと同じロケールで実行してください。異なるロケールで上書きインストールした場合、正常にインストールできないことがあります。

3.2.5 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

3.3 サーバ帳票出力機能について

3.3.1 対象製品

- V8 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 3-3. 移行製品

uCosminexus EUR V8		EUR V11
uCosminexus EUR Print Service	→	(*1)
uCosminexus EUR Print Service Enterprise	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard
uCosminexus EUR Print Service - Cipher option	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option

(*1) 従来、uCosminexus EUR Print Service で提供していたサーバ帳票印刷専用の製品は、V11 ではご用意しておりませんので、V11 の新規ご購入をお願いいたします。
V11 を新規導入する場合は、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard、または、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のご検討をお願いいたします。

3.3.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V8 のサーバ帳票出力で使用していたフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

3.3.3 起動インタフェースの互換性について

V11 のサーバ実行環境では、起動インタフェースを「EUR Server – Adapter (コマンド、Java、ActiveX、COBOL)」として提供します。

新たに開発するプログラムでは EUR Server - Adapter の使用をおすすめしますが、V8 の起動インタフェースも互換機能として利用できます。ただし、製品構成の変更に伴い V8 と V11 ではフォルダ構成が異なりますので、実行ファイル等のパスをプログラムや環境設定で指定している場合は変更が必要です。

(1) コマンドの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V8 と互換性があります。
V8 の eurps コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。
- コマンドの実行ファイルの格納先が変わるため、プログラムでコマンドをフルパスで呼び出しているときは、呼び出し部分の処理を変更してください。
- OS の環境変数などでコマンドの実行ファイルの格納先にパスを通しているときは、パスの設定を変更してください。

(2) ActiveX 起動インタフェースの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V8 と互換性があります。
V8 の ActiveX 起動部品で指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(3) JavaBeans 起動部品の互換性について

- JavaBeans 起動部品の格納先が変わるため、クラスパス、およびライブラリのパスの設定を変更してください。
クラスパス、およびライブラリのパスの設定方法については、ご使用の JSP 環境のマニュアルを参

照してください。

- プロパティファイル (EURPSManager.properties) にパス情報が含まれるため、プログラムにプロパティファイルを取り込んでいるときは、プロパティファイルを修正してリビルドしてください。
- JavaBeans 起動部品のエラーログとトレースログの出力機能を廃止しました。eurps ログは、引き続き出力されます。
- V11 が前提とする JDK のバージョンは、JDK8 以降です。

3.3.4 EUR 形式ファイルの互換性について

- V11 のサーバ製品で生成した EUR 形式ファイルは、V8 のクライアント製品でも表示/印刷を行えますので、サーバ製品だけのバージョンアップも可能です。ただし、EUR 形式ファイルをクライアントで表示/印刷できるかどうかは、EUR 形式ファイルに含まれる帳票定義ファイル(*.fms)のバージョンに依存しますので、V8 のクライアント製品を使用する場合は V8 以前で作成した帳票定義ファイル(*.fms)で EUR 形式ファイルを生成してください。

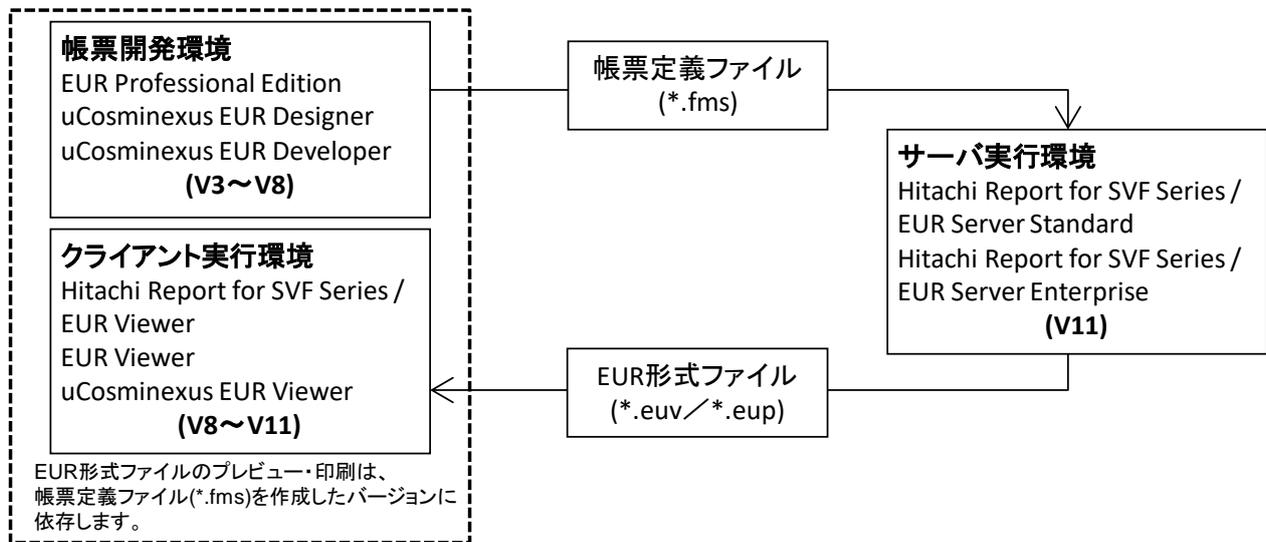


図 3-1. クライアントとサーバのバージョンの組み合わせ

3.3.5 他製品との連携機能について

次の機能は、64bit ネイティブ対応に伴いサポート対象外となりました。

- 「JP1/Network Printing System」と連携した仕分け印刷機能
V11 では、EUR Server Enterprise の標準機能として提供する仕分け印刷機能をご利用ください。
- 「紙の番人」と連携した PDF 形式ファイルへの複写検知模様の埋め込み機能
帳票印刷時に、紙の番人ドライバを使用して複写検知模様を出力する機能は、従来どおりご使用いただけます。

3.3.6 環境設定ファイルの項目について

- 「紙の番人」と連携した PDF 形式ファイル出力機能の廃止にともない、透かし情報ファイルの読み込みフォルダを指定する環境変数「EURPS_TINTINFOPATH」を削除しました。
環境変数や、環境設定ファイル(EURPS_ENV)で「EURPS_TINTINFOPATH」を指定している場合は削除してください。

3.3.7 移行後の注意事項について

(1) 出力結果の確認について

- V11 に移行後、出力テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります。

3.3.8 インストールについて

- V8 と V11 は同一マシン上に共存できません。
- V8 から V11 への上書きインストールはできません。
V8 をアンインストールしてから V11 をインストールしてください。
- 環境設定ファイル(EURPS_ENV または eurps_env)とプリンタ定義ファイル(printerinf)を作成していた場合はファイルをバックアップし、V11 の環境に移行してください。
- V11 では製品体系の変更に伴い、サーバ製品のデフォルトのインストール先を以下のフォルダに統合しました。
Windows 版 C:\Program Files\HITACHI\EUR
UNIX/Linux 版 /opt/eur/

3.3.9 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。
ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

3.3.10 スプールタイトル指定機能サポート

- 文書情報設定ファイルを利用してスプールタイトルを指定する機能に加え、業務アプリケーションから動的にスプールタイトルのパラメタが指定できるようになりました。(SpoolTitle プロパティが追加になりました)
これにより、蓄積された帳票の印刷時および直接印刷時にプリンタの印刷ジョブ確認画面にて、SpoolTitle プロパティで指定したタイトル名称とスプールのドキュメント名が一致するため、どの帳票が印刷されたか、よりわかりやすくなります。

3.4 クライアント帳票出力機能について

3.4.1 対象製品

- V8 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 3-4. 移行製品

uCosminexus EUR V8	→	EUR V11
uCosminexus EUR Viewer		Hitachi Report for SVF Series / EUR Viewer

3.4.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V8 のクライアント帳票出力で使用していたフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

3.4.3 EUR 形式ファイルの互換性について

- V8 で生成した EUR 形式ファイルは V11 でも印刷やプレビューが可能です。

3.4.4 起動インタフェースの互換性について

V11 のクライアント実行環境では、起動インタフェースをコマンドおよび OLE オートメーションとして提供します。

新たに開発するプログラムではコマンドまたは OLE オートメーションの使用をおすすめしますが、V8 の起動インタフェース (OCX および DLL インタフェース関数) も互換機能として利用できます。ただし、製品構成の変更に伴い V8 と V11 ではフォルダ構成が異なりますので、実行ファイル等のパスをプログラムや環境設定で指定している場合は変更が必要です。

(1) コマンドの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V8 と互換性があります。
V8 の `apgrpt` コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。
- EUR 形式ファイルの印刷またはプレビューを行っている場合、V8 と V11 では、`eurer` コマンドの実行ファイルの格納先フォルダが異なります。プログラムで `eurer` コマンドをフルパスで呼び出しているときは、呼び出し部分の処理を変更してください。
また、OS の環境変数などで `eurer` コマンドの実行ファイルの格納先にパスを通してしているときは、パスの設定を変更してください。
V8 の `eurer` コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。

(2) OLE オートメーションの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V8 と互換性があります。
V8 の OLE オートメーションで指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(3) OCX の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V8 と互換性があります。
V8 の OCX で指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(4) DLL インタフェース関数の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V8 と互換性があります。
V8 の DLL インタフェース関数で指定していたキーワードは、V11 でもそのまま使用できます。

3.4.5 移行後の注意事項について

(1) 出力結果の確認について

- V11 に移行後、出力テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります。

3.4.6 インストールについて

- V8 と V11 は同一マシン上に共存できません。
- V8 から V11 へのバージョンアップは、上書きインストールで行えます。
- 環境設定ファイル (EUR_ENV) とプリンタ定義ファイル (printerinf) を作成していた場合、上書きインストールしても上書きされずインストールする前の情報がそのまま残ります。
- 上書きインストールをする場合は、前回インストールしたロケールと同じロケールで実行してください。異なるロケールで上書きインストールした場合、正常にインストールできないことがあります。

3.4.7 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。
ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

3.5 統合印刷管理実行環境について

3.5.1 対象製品

- V8 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 3-5. 移行製品

uCosminexus EUR V8		EUR V11
uCosminexus EUR Print Service または uCosminexus EUR Print Service Enterprise uCosminexus EUR Print Manager	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard
uCosminexus EUR Print Service または uCosminexus EUR Print Service Enterprise uCosminexus EUR Print Manager uCosminexus EUR Print Manager - Report Server	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise
uCosminexus EUR Print Manager - Client	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Client

- V11 では、各コンポーネントの名称を以下のように変更しました。

表 3-6. コンポーネントの名称変更

uCosminexus EUR V8	EUR V11
EUR Print Manager	EUR Server Service
EUR Print Manager - Adapter	EUR Server Service - Adapter
EUR Print Manager - Report Server	EUR Server - Spool Service
EUR Print Manager - Report Server Adapter	EUR Server - Spool Service Adapter
蓄積管理 GUI サービス	帳票管理 GUI サービス
EUR Print Manager - Client	EUR Server - Client
EUR Print Manager - Client (常駐版、ヘルパ)	EUR Client Service
EUR Print Manager - Client ActiveX	EUR Web Plug-In

3.5.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V8 の EUR Print Manager 環境で使用していたフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

3.5.3 EPF 形式ファイルの互換性について

- V8 で生成した EPF 形式ファイルは V11 でも印刷やプレビューが可能です。
- V8 で蓄積した帳票は、V11 でも印刷やプレビューが可能です。

3.5.4 Adobe Flash Player サポート終了に伴う変更点について

(1) 蓄積管理 GUI サービスについて

- 蓄積管理 GUI サービスを使用している場合は、V11 の帳票管理 GUI サービスプログラム (eurpmrsgui.ear) を Web/AP サーバに再登録する必要があります。
war 形式を使用する場合は、eurpmrsgui.ear から war 形式のファイルを取り出してください。
- Java 起動部品の格納先が変わるため、クラスパス、およびライブラリのパスの設定を変更してください。クラスパスおよびライブラリのパスの設定方法については、ご使用の JSP 環境のマニュアルを参照してください。
- V11 では、帳票管理 GUI のサービス名が eurpmrsgui(全て小文字)になります。
帳票管理 GUI にアクセスする URL が変更になりますので、V8 の蓄積管理 GUI で、
http://<蓄積管理 GUI サービス IP アドレス>/EURPMRSGUI/
http://<蓄積管理 GUI サービス IP アドレス>/Eurpmrsgui/
のように大文字が混在しているサービス名を URL に指定している場合は、
http://<帳票管理 GUI サービス IP アドレス>/eurpmrsgui/
に修正してください。
- V11 が前提とする JDK のバージョンは、JDK8 以降です。
- 蓄積管理 GUI を利用する Web クライアントに V8 では、Adobe Flash Player が必要でしたが、V11 からは不要となります。
- 帳票管理 GUI は画面仕様を変更したことにより、見た目が異なる場合がありますが、操作性につきましてはおおむね変更はありません。
詳細は資料「帳票管理 GUI の HTML 化による Flash 版との相違点」を参照願います。
- V11 で使用できる Web ブラウザは、次の通りです。
32 ビット版の Internet Explorer 11
Microsoft Edge(Chromium 版)の IE モード

3.5.5 起動インタフェースの互換性について

V11 の起動インタフェースは V8 と互換性があります。

ただし、製品構成の変更に伴い V8 と V11 ではフォルダ構成が異なりますので、実行ファイル等のパスをプログラムや環境設定で指定している場合は変更が必要です。

(1) コマンドの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V8 と互換性があります。
V8 の eurpmc コマンド、eurpmlsc コマンドおよび eurpmcepfviewer コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。
- コマンドの実行ファイルの格納先が変わるため、プログラムでコマンドをフルパスで呼び出しているときは、呼び出し部分の処理を変更してください。
- OS の環境変数などでコマンドの実行ファイルの格納先にパスを通していているときは、パスの設定を変更してください。

(2) ActiveX 起動部品の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V8 と互換性があります。
V8 の ActiveX 起動部品で指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(3) Java 起動部品の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V8 と互換性があります。
V8 の Java 起動部品で指定していたメソッドは、V11 でもそのまま使用できます。
- Java 起動部品の格納先が変わるため、クラスパス、およびライブラリのパスの設定を変更してください。クラスパス、およびライブラリのパスの設定方法については、ご使用の JSP 環境のマニュアル

ルを参照してください。

- V11 が前提とする JDK のバージョンは、JDK8 以降です。

(4) COBOL 起動部品の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V8 と互換性があります。
V8 の COBOL 起動部品で指定していた関数とパラメータは、V11 でもそのまま使用できます。
- COBOL 起動部品の格納先が変わるため、COBOL 起動部品のパスの設定を変更してください。

(5) ActiveX 部品 (EUR Web Plug-In) について

- V11 の起動インタフェースは V8 と互換性があります。
V8 で、HTML の<object>タグに指定していたパラメータ、メソッドおよびプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。
- 08-70 でサポートした「ユーザ単位インストール用のパッケージ (CAB 形式ファイル)」でダウンロードインストールしている場合は、クラス ID が変更になります。
ActiveX 部品を呼び出す処理でクラス ID を直接指定しているときは、指定する値を変更してください。
なお、ActiveX 起動部品または Java 起動部品のメソッドを使用してクラス ID を取得しているときは、プログラムの修正は不要です。
V11 のユーザ単位インストール用 EUR Web Plug-In 情報ファイル (EURPMPrintAX.inf または EURPMPreViewAX.inf) を EUR Server - Adapter 稼働マシンに配置すると、変更後のクラス ID が取得できます。
- V11 で使用できる Web ブラウザは、次の通りです。
32 ビット版の Internet Explorer 11
Microsoft Edge(Chromium 版)の IE モード
(Microsoft 社は、Internet Explorer 11 のサポートを 2022 年に終了しました。また、Microsoft Edge の IE モードは少なくとも 2029 年までサポートされると発表していますが、IE モードのサポートも終了した場合、「EUR Web Plug-In」は使用できなくなります。そのため、今後は「EUR Web Plug-In」の使用をお勧めしません。)

3.5.6 環境設定ファイルの項目について

- EUR Print Manager – Report Server での印刷処理をスレッドで行うか、またはプロセスを起動して行うかを指定するキー項目を削除しました。V11 では、プロセスを起動して印刷処理を行います。環境設定ファイルでこのキー項目を指定している場合は削除してください。

表 3-7. 削除したキー

環境設定ファイル	セクション	キー
EUR Print Manager – Report Server (EURPMLS.ini)	[THREAD]	PRINTEXECMODE

3.5.7 インストールについて

- V8 と V11 は同一マシン上に共存できません。
- V8 から V11 への上書きインストールはできません。
V8 をアンインストールしてから V11 をインストールしてください。
- V8 で作成した環境設定ファイル(*.ini)およびプリンタクラス定義ファイルなどの定義ファイル(*.conf)はバックアップを取り、V11 の環境へ移行してください。
- V11 では製品体系の変更に伴い、サーバ製品のデフォルトのインストール先を以下のフォルダに統合しました。

Windows 版 C:\Program Files\HITACHI\EUR
UNIX/Linux 版 /opt/eur/

3.5.8 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。
ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

3.5.9 スプールタイトル指定機能サポート

- 文書情報設定ファイルを利用してスプールタイトルを指定する機能に加え、業務アプリケーションから動的にスプールタイトルのパラメタが指定できるようになりました。(SpoolTitle プロパティが追加になりました)
これにより、蓄積された帳票の印刷時および直接印刷時にプリンタの印刷ジョブ確認画面にて、SpoolTitle プロパティで指定したタイトル名称とスプールのドキュメント名が一致するため、どの帳票が印刷されたか、よりわかりやすくなります。

4.V7 から V11 への移行

この章では、V7 の製品から V11 の製品へ移行する時の互換性および注意事項について説明します。

4.1 EUR V7 と EUR V11 の差異

4.1.1 製品体系

- V11 では「サーバ実行環境」および「統合印刷管理実行環境」を統合し、新しい製品体系になりました。
- 従来、EUR Print Manager – Report Server で提供していた拠点サーバ機能を、V11 では Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のスプールサーバ機能として提供し、システム形態に合わせて自由に配置できるようになりました。大規模システムへの拡張が容易になります。
- 従来、EUR Print Manager – Client として提供していたクライアント機能を、EUR サーバ製品(Standard および Enterprise)に同梱します。
EUR サーバ製品の 1CPU ライセンスあたり 1,000 クライアントライセンスを無償で利用でき、利用ユーザの拡大に柔軟に対応します。
- 従来、EUR Print Service で提供していたサーバ帳票印刷専用の製品は、V11 ではご用意しておりませんので、V11 の新規ご購入をお願いいたします。V11 を新規導入する場合は、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard、または、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のご検討をお願いいたします。

表 4-1. バージョン間の製品体系の差異

	EUR V7	EUR V11
開発環境	EUR Professional Edition	Hitachi Report for SVF Series / EUR Developer (*1)

(*1) 統合開発環境です。

Hitachi Report for SVF Series / EUR Designerに加え、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise の機能を利用したテストまで行えます。

	EUR V7	EUR V11
サーバ 実行環境 / 統合印刷管理 実行環境	EUR Print Service	(*2)
	EUR Print Service	(*2)
	EUR Print Manager	
	EUR Print Service	
	EUR Print Service - Portable Document Format option	
	EUR Print Service - EUR report option	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard (*3)
	EUR Print Service - EUR Print Format option	
	EUR Print Manager	
EUR Print Manager - Client		

	EUR V7		EUR V11
サーバ 実行環境 / 統合印刷管 理実行環境	EUR Print Service	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise (*4)
	EUR Print Service - Portable Document Format option		
	EUR Print Service - EUR report option		
	EUR Print Service -EUR Print Format option		
	EUR Print Manager		
	EUR Print Manager - Report Server		
	EUR Print Manager - Client		
	EUR Print Service - Portable Document Format Cipher option		Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option

- (*2) 従来、EUR Print Service で提供していたサーバ帳票印刷専用の製品は、V11 ではご用意しておりませんので、V11 の新規ご購入をお願いいたします。V11 を新規導入する場合は、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard、または、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のご検討をお願いいたします。
- (*3) EUR Print Service (PDF/EUR 形式ファイル出力オプション含む) と、EUR Print Manager および EUR Print Manager - Client を統合した製品です。
- (*4) Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard に、EUR Print Manager - Report Server を統合した製品です。

	EUR V7		EUR V11
クライアント 実行環境	EUR Viewer	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Viewer (*5)
	EUR Viewer - EUR report option		
	EUR Print Manager - Client		Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Client License

- (*5) EUR Viewer と EUR 形式ファイル出力オプションを統合し、1 製品になりました。

4.2 帳票作成機能について

4.2.1 対象製品

- V7 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 4-2. 移行製品

EUR V7	→	EUR V11
EUR Professional Edition		Hitachi Report for SVF Series / EUR Developer

4.2.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V7 の帳票作成機能で作成したフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

4.2.3 移行後の注意事項について

(1) 文字幅計算方法について

- V7 の帳票作成機能で作成した帳票を V11 で表示するときは、文字幅計算方法を静的モード(デフォルト)にしてください。動的モードで表示した場合、フォントの表示位置が異なる場合があります。
※V8 から、固定ピッチフォントに加え可変ピッチフォント(プロポーショナルフォント)を使用できるようにしました。そのため、固定ピッチフォントの文字幅計算方法に、プロポーショナルフォント出力時と同じ計算方法(動的モード)が追加されました。

(2) 出力結果の確認について

- V11 に移行後、表示・印刷テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります。

4.2.4 インストールについて

- V7 と V11 は同一マシン上に共存できません。
- V7 から V11 への上書きインストールはできません。
V7 をアンインストールしてから V11 をインストールしてください。
- 作成したフォームシートファイルなどを、V7 のインストールフォルダ下に保存している場合は、バックアップをとってからアンインストールしてください。
- V11 では、デフォルトのインストール先を以下のフォルダに変更しました。
C:\Program Files\HITACHI\EUR

4.2.5 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。
ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

4.3 サーバ帳票出力機能について

4.3.1 対象製品

- V7 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 4-3. 移行製品

EUR V7		EUR V11
EUR Print Service	→	(*1)
EUR Print Service EUR Print Service - Portable DocumentFormat option EUR Print Service - EUR report option	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard
EUR Print Service - Portable Document Format Cipher option	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option

(*1) 従来、EUR Print Service で提供していたサーバ帳票印刷専用の製品は、V11 ではご用意しておりませんので、V11 の新規ご購入をお願いいたします。

V11 を新規導入する場合は、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard、または、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のご検討をお願いいたします。

4.3.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V7 のサーバ帳票出力で使用していたフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

4.3.3 起動インタフェースの互換性について

V11 のサーバ実行環境では、起動インタフェースを「EUR Server – Adapter (コマンド、Java、ActiveX、COBOL)」として提供します。

新たに開発するプログラムでは EUR Server - Adapter の使用をおすすめしますが、V7 の起動インタフェースも互換機能として利用できます。ただし、製品構成の変更に伴い V7 と V11 ではフォルダ構成が異なりますので、実行ファイル等のパスをプログラムや環境設定で指定している場合は変更が必要です。

(1) コマンドの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V7 と互換性があります。
V7 の eurps コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。
- コマンドの実行ファイルの格納先が変わるため、プログラムでコマンドをフルパスで呼び出しているときは、呼び出し部分の処理を変更してください。
- OS の環境変数などでコマンドの実行ファイルの格納先にパスを通しているときは、パスの設定を変更してください。

(2) ActiveX 起動インタフェースの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V7 と互換性があります。
V7 の ActiveX 起動部品で指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(3) JavaBeans 起動部品の互換性について

- JavaBeans 起動部品の格納先が変わるため、クラスパス、およびライブラリのパスの設定を変更してください。
クラスパス、およびライブラリのパスの設定方法については、ご使用の JSP 環境のマニュアルを参

照してください。

- プロパティファイル (EURPSManager.properties) にパス情報が含まれるため、プログラムにプロパティファイルを取り込んでいるときは、プロパティファイルを修正してリビルドしてください。
- JavaBeans 起動部品のエラーログとトレースログの出力機能を廃止しました。eurps ログは、引き続き出力されます。
- V11 が前提とする JDK のバージョンは、JDK8 以降です。

4.3.4 EUR 形式ファイルの互換性について

- V11 のサーバ製品で生成した EUR 形式ファイルは、V7 のクライアント製品でも表示/印刷を行えますので、サーバ製品だけのバージョンアップも可能です。
ただし、EUR 形式ファイルをクライアントで表示/印刷できるかどうかは、EUR 形式ファイルに含まれる帳票定義ファイル(*.fms)のバージョンに依存しますので、V7 のクライアント製品を使用する場合は V7 以前で作成した帳票定義ファイル(*.fms)で EUR 形式ファイルを生成してください。

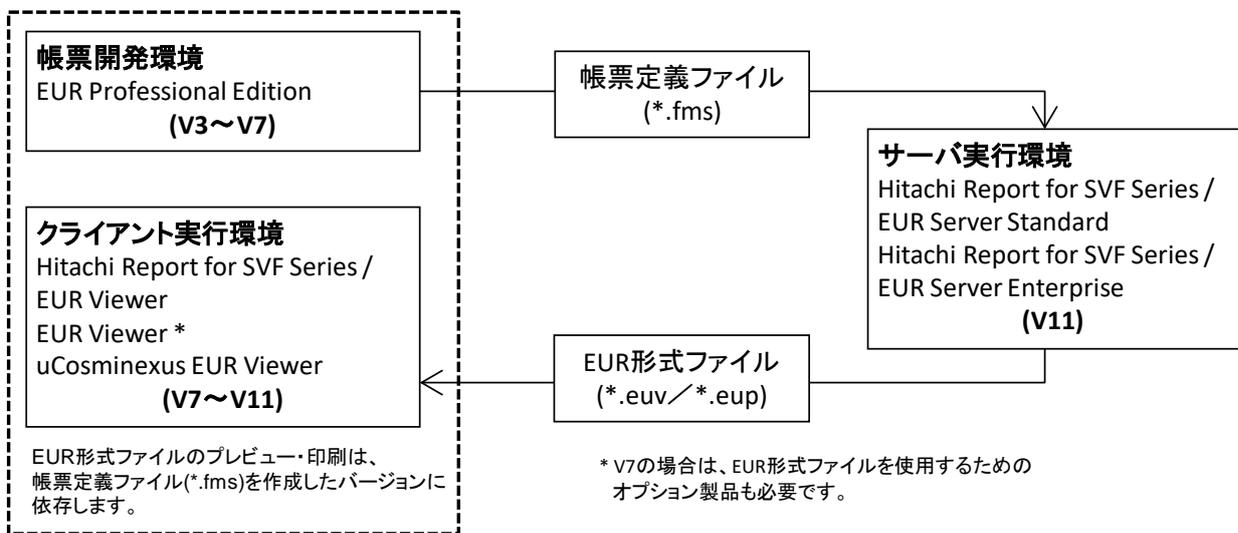


図 4-1. クライアントとサーバのバージョンの組み合わせ

4.3.5 他製品との連携機能について

- 「JP1/Network Printing System」と連携した仕分け印刷機能 64bit ネイティブ対応に伴いサポート対象外となりました。
V11 では、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise の標準機能として提供する仕分け印刷機能をご利用ください。

4.3.6 移行後の注意事項について

(1) 文字幅計算方法についての注意事項

V7 以前の帳票作成機能で作成した帳票を V11 で出力する場合は、文字幅計算方法を静的モード(デフォルト)で出力してください。動的モードで出力した場合、フォントの印字や表示の位置が異なる場合があります。

※V8 から、固定ピッチフォントに加え可変ピッチフォント(プロポーショナルフォント)を使用できるようにしました。そのため、固定ピッチフォントの文字幅計算方法に、プロポーショナルフォントを出力するときと同じ計算をする方法(動的モード)が追加されました。

(2) 出力結果の確認について

- V11 に移行後、出力テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります。

4.3.7 インストールについて

- V7 と V11 は同一マシン上に共存できません。
- V7 から V11 への上書きインストールはできません。
V7 をアンインストールしてから V11 をインストールしてください。
- 環境設定ファイル(EURPS_ENV または eurps_env)とプリンタ定義ファイル(printerinf)を作成していた場合はファイルをバックアップし、V11 の環境に移行してください。

4.3.8 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。
ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

4.3.9 スプールタイトル指定機能サポート

- 文書情報設定ファイルを利用してスプールタイトルを指定する機能に加え、業務アプリケーションから動的にスプールタイトルのパラメタが指定できるようになりました。(SpoolTitle プロパティが追加になりました)
これにより、蓄積された帳票の印刷時および直接印刷時にプリンタの印刷ジョブ確認画面にて、SpoolTitle プロパティで指定したタイトル名称とスプールのドキュメント名が一致するため、どの帳票が印刷されたか、よりわかりやすくなります。

4.4 クライアント帳票出力機能について

4.4.1 対象製品

- V7 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 4-4. 移行製品

EUR V7	EUR V11
EUR Viewer	Hitachi Report for SVF Series / EUR Viewer

4.4.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V7 のクライアント帳票出力で使用していたフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

4.4.3 起動インタフェースの互換性について

V11 のクライアント実行環境では、起動インタフェースをコマンドおよび OLE オートメーションとして提供します。

新たに開発するプログラムではコマンドまたは OLE オートメーションの使用をおすすめしますが、V7 の起動インタフェース (OCX および DLL インタフェース関数) も互換機能として利用できます。ただし、製品構成の変更に伴い V7 と V11 ではフォルダ構成が異なりますので、実行ファイル等のパスをプログラムや環境設定で指定している場合は変更が必要です。

(1) コマンドの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V7 と互換性があります。
V7 の `apgrpt` コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。
- EUR 形式ファイルの印刷またはプレビューを行っている場合、V7 と V11 では、`eurer` コマンドの実行ファイルの格納先フォルダが異なります。プログラムで `eurer` コマンドをフルパスで呼び出しているときは、呼び出し部分の処理を変更してください。
また、OS の環境変数などで `eurer` コマンドの実行ファイルの格納先にパスを通してしているときは、パスの設定を変更してください。
V7 の `eurer` コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。

(2) OLE オートメーションの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V7 と互換性があります。
V7 の OLE オートメーションで指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(3) OCX の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V7 と互換性があります。
V7 の OCX で指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(4) DLL インタフェース関数の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V7 と互換性があります。
V7 の DLL インタフェース関数で指定していたキーワードは、V11 でもそのまま使用できます。

4.4.4 EUR 形式ファイルの互換性について

- V7 で生成した EUR 形式ファイルは V11 でも印刷やプレビューが可能です。

4.4.5 移行後の注意事項について

(1) スタートメニューからの新規ウィンドウ起動について

- V7 では、スタートメニューから新規ウィンドウを起動して帳票を開くと、データファイル(*.csv)は [オプション] ダイアログの [ファイル] タブで指定されているフォルダから読み込まれます。そのため、任意のフォルダからデータを読み込むには、帳票を表示した後に [オプション] ダイアログでデータファイルの読み込み先フォルダの設定を変更する必要があります。V11 (08-20 以降)では、スタートメニューから新規ウィンドウを起動すると、プレビューする帳票定義ファイル(*.fms)やデータファイル(*.csv)などを指定するダイアログを表示します。スタートメニューから新規ウィンドウの起動後すぐに任意の帳票とデータを指定して帳票をプレビューできます。

(2) 文字幅計算方法について

- V7 の帳票作成機能で作成した帳票を V11 で表示するときは、文字幅計算方法を静的モード(デフォルト)にしてください。動的モードで表示した場合、フォントの表示位置が異なる場合があります。※V8 から、固定ピッチフォントに加え可変ピッチフォント(プロポーショナルフォント)を使用できるようにしました。そのため、固定ピッチフォントの文字幅計算方法に、プロポーショナルフォント出力時と同じ計算方法(動的モード)が追加されました。

(3) 出力結果の確認について

- V11 に移行後、出力テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります。

4.4.6 インストールについて

- V7 と V11 は同一マシン上に共存できません。
- V7 から V11 へのバージョンアップは上書きインストールで行えますが、インストール先フォルダは引き継がれません。デフォルト以外のインストール先にインストールしていた場合は、同じフォルダを指定してインストールしてください。
- 環境設定ファイル (EUR_ENV) とプリンタ定義ファイル (printerinf) を作成していた場合、上書きインストールしても上書きされずインストールする前の情報がそのまま残ります。
- 上書きインストールをする場合は、前回インストールしたロケールと同じロケールで実行してください。異なるロケールで上書きインストールした場合、正常にインストールできないことがあります。

4.4.7 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

4.5 統合印刷管理実行環境について

4.5.1 対象製品

- V7 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 4-5. 移行製品

EUR V7		EUR V11
EUR Print Service EUR Print Manager		(*1)
EUR Print Service(オプション製品を含む) EUR Print Manager		Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard
EUR Print Service または EUR Print Service(オプション製品を含む) EUR Print Manager EUR Print Service - EUR Print Format option	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard
EUR Print Service または EUR Print Service(オプション製品を含む) EUR Print Manager EUR Print Manager - Report Server EUR Print Service - EUR Print Format option	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise
EUR Print Manager - Client	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Client

- (*1) 従来、EUR Print Service で提供していたサーバ帳票印刷専用の製品は、V11 ではご用意しておりませんので、V11 の新規ご購入をお願いいたします。
V11 を新規導入する場合は、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard、または、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のご検討をお願いいたします。

- V11 では、各コンポーネントの名称を以下のように変更しました。

表 4-6. コンポーネントの名称変更

EUR V7	EUR V11
EUR Print Manager	EUR Server Service
EUR Print Manager - Adapter	EUR Server Service - Adapter
EUR Print Manager - Report Server	EUR Server - Spool Service
EUR Print Manager - Report Server Adapter	EUR Server - Spool Service Adapter
EUR Print Manager - Client	EUR Server - Client
EUR Print Manager - Client (常駐版、ヘルパ)	EUR Client Service
EUR Print Manager - Client ActiveX	EUR Web Plug-In

4.5.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V7 の EUR Print Manager 環境で使用していたフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

4.5.3 EPF 形式ファイルの互換性について

- V7 で生成した EPF 形式ファイルは V11 でも印刷やプレビューが可能です。
- V7 で蓄積した帳票は、V11 も印刷やプレビューが可能です。

4.5.4 起動インタフェースの互換性について

V11 の起動インタフェースは V7 と互換性があります。

ただし、製品構成の変更に伴い V7 と V11 ではフォルダ構成が異なりますので、実行ファイル等のパスをプログラムや環境設定で指定している場合は変更が必要です。

(1) コマンドの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V7 と互換性があります。
V7 の eurpmc コマンドおよび eurpmlsc コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。
- コマンドの実行ファイルの格納先が変わるため、プログラムでコマンドをフルパスで呼び出しているときは、呼び出し部分の処理を変更してください。
- OS の環境変数などでコマンドの実行ファイルの格納先にパスを通していているときは、パスの設定を変更してください。

(2) ActiveX 起動部品の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V7 と互換性があります。
V7 の ActiveX 起動部品で指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(3) Java 起動部品の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V7 と互換性があります。
V7 の Java 起動部品で指定していたメソッドは、V11 でもそのまま使用できます。
- Java 起動部品の格納先が変わるため、クラスパス、およびライブラリのパスの設定を変更してください。クラスパス、およびライブラリのパスの設定方法については、ご使用の JSP 環境のマニュアルを参照してください。
- V11 が前提とする JDK のバージョンは、JDK8 以降です。

(4) COBOL 起動部品の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V7 と互換性があります。
V7 の COBOL 起動部品で指定していた関数とパラメータは、V11 でもそのまま使用できます。
- COBOL 起動部品の格納先が変わるため、COBOL 起動部品のパスの設定を変更してください。

(5) ActiveX 部品 (EUR Web Plug-In) について

- V11 の起動インタフェースは V7 と互換性があります。
V7 で、HTML の<object>タグに指定していたパラメータ、メソッドおよびプロパティは、V10 でもそのまま使用できます。
- V11 で使用できる Web ブラウザは、次の通りです。
32 ビット版の Internet Explorer 11
Microsoft Edge(Chromium 版)の IE モード
(Microsoft 社は、Internet Explorer 11 のサポートを 2022 年に終了しました。また、Microsoft Edge の IE モードは少なくとも 2029 年までサポートされると発表していますが、IE モードのサポートも終了した場合、「EUR Web Plug-In」は使用できなくなります。そのため、今後は「EUR Web Plug-In」の使用をお勧めしません。)

4.5.5 環境設定ファイルの項目について

- EUR Print Service のプログラムファイルのフォルダを指定するキー項目を削除しました。
EUR Print Service のプログラムファイルのフォルダは、インストール先から自動的に取得されます。
環境設定ファイルでこれらのキー項目を指定している場合は削除してください。

表 4-7. 削除したキー

環境設定ファイル	セクション	キー
EUR Print Manager (EURPM.ini)	[PATH]	EURPS
EUR Print Manager – Report Server (EURPMLS.ini)	[PATH]	EURPS

- EUR Print Manager – Report Server での印刷処理をスレッドで行うか、またはプロセスを起動して行うかを指定するキー項目を削除しました。V11 では、プロセスを起動して印刷処理を行います。環境設定ファイルでこのキー項目を指定している場合は削除してください。

表 4-8. 削除したキー

環境設定ファイル	セクション	キー
EUR Print Manager – Report Server (EURPMLS.ini)	[THREAD]	PRINTEXECMODE

4.5.6 インストールについて

- V7 と V11 は同一マシン上に共存できません。
- V7 から V11 への上書きインストールはできません。
V7 をアンインストールしてから V11 をインストールしてください。
- V7 で作成した環境設定ファイル(*.ini)およびプリンタクラス定義ファイルなどの定義ファイル(*.conf)はバックアップを取り、V11 の環境へ移行してください。
- V11 では製品体系の変更に伴い、サーバ製品のデフォルトのインストール先を以下のフォルダに統合しました。

Windows 版 C:\Program Files\HITACHI\EUR

UNIX/Linux 版 /opt/eur/

4.5.7 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。
ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

4.5.8 スプールタイトル指定機能サポート

- 文書情報設定ファイルを利用してスプールタイトルを指定する機能に加え、業務アプリケーションから動的にスプールタイトルのパラメタが指定できるようになりました。(SpoolTitle プロパティが追加になりました)

これにより、蓄積された帳票の印刷時および直接印刷時にプリンタの印刷ジョブ確認画面にて、SpoolTitle プロパティで指定したタイトル名称とスプールのドキュメント名が一致するため、どの帳票が印刷されたか、よりわかりやすくなります。

5.V5 から V11 への移行

この章では、V5 の製品から V11 の製品へ移行する時の互換性および注意事項について説明します。

5.1 EUR V5 と EUR V11 の製品体系の差異

5.1.1 製品体系

- V11 では「サーバ実行環境」および「統合印刷管理実行環境」を統合し、新しい製品体系になりました。
- 従来、EUR Print Manager – Local Server で提供していた拠点サーバ機能を、V11 では Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のスプールサーバ機能として提供し、システム形態に合わせて自由に配置できるようになりました。大規模システムへの拡張が容易になります。
- 従来、EUR Print Manager – Client として提供していたクライアント機能を、EUR サーバ製品(Standard および Enterprise)に同梱します。
EUR サーバ製品の 1CPU ライセンスあたり 1,000 クライアントライセンスを無償で利用でき、利用ユーザの拡大に柔軟に対応します。
- 従来、EUR Print Service で提供していたサーバ帳票印刷専用の製品は、V11 ではご用意しておりませんので、V11 の新規ご購入をお願いいたします。V11 を新規導入する場合は、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard、または、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のご検討をお願いいたします。

表 5-1. バージョン間の製品体系の差異

	EUR V5		EUR V11	
開発環境	EUR Professional Edition	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Developer (*1)	
	EUR Professional Edition		→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Developer (*1)
	EUR Professional Edition - Form Option			

(*1) 統合開発環境です。

Hitachi Report for SVF Series / EUR Designerに加え、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise の機能を利用したテストまで行えます。

EUR Form 帳票作成機能も EUR Developer に含まれます。

	EUR V5		EUR V11
サーバ 実行環境 / 統合印刷管理 実行環境	EUR Print Service	→	(*2)
	EUR Print Service		(*2)
	EUR Print Manager		
	EUR Print Service		
	EUR Print Service - Portable Document Format report		
	EUR Print Service - EUR report		
	EUR Print Service - EUR Print Format report		
	EUR Print Manager		
EUR Print Manager - Client		Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard (*3)	

	EUR V5		EUR V11
サーバ 実行環境 / 統合印刷管 理実行環境	EUR Print Service	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise (*4)
	EUR Print Service - Portable Document Format option		
	EUR Print Service - EUR report		
	EUR Print Service - EUR Print Format report		
	EUR Print Manager		
	EUR Print Manager - Local Server		
	EUR Print Manager - Client		
EUR Print Service - Portable Document Format report Cipher Option	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option	

(*2) 従来、EUR Print Service で提供していたサーバ帳票印刷専用の製品は、

V11 ではご用意しておりませんので、V11 の新規ご購入をお願いいたします。

V11 を新規導入する場合は、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard、または、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のご検討をお願いいたします。

(*3) EUR Print Service (PDF/EUR/EPF 形式ファイル出力オプション含む) と EUR Print Manager および EUR Print Manager - Client を統合した製品です。

(*4) Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard に、EUR Print Manager - Local Server を統合した製品です。

	EUR V5		EUR V11
クライアント 実行環境	EUR Viewer	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Viewer (*5)
	EUR Viewer - EUR report		
	EUR Print Manager - Client		→

(*5) EUR Viewer と EUR 形式ファイル出力オプションを統合し、1 製品になりました。

5.2 帳票作成機能について

5.2.1 対象製品

- V5 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 5-2. 移行製品

EUR V5	EUR V11
EUR Professional Edition	Hitachi Report for SVF Series / EUR Developer

5.2.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V5 の帳票作成機能で作成したフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

5.2.3 移行後の注意事項について

(1) 文字幅計算方法についての注意事項

- V5 の帳票作成機能で作成した帳票を V11 で表示するときは、文字幅計算方法を静的モード(デフォルト)にしてください。動的モードで表示した場合、フォントの表示位置が異なる場合があります。
※V8 から、固定ピッチフォントに加え可変ピッチフォント(プロポーショナルフォント)を使用できるようにしました。そのため、固定ピッチフォントの文字幅計算方法に、プロポーショナルフォント出力時と同じ計算方法(動的モード)が追加されました。

(2) 出力結果の確認について

- V11 に移行後、表示・印刷テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります

5.2.4 インストールについて

- V5 と V11 では対応 OS が異なるため、上書きインストールはできません。
- 作成したフォームシートファイルなどを V5 のインストールフォルダ下に保存している場合は、バックアップをとって V11 の環境に移行してください。
- V11 では、デフォルトのインストール先を以下のフォルダに変更しました。
C:¥Program Files¥HITACHI¥EUR

5.2.5 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。
ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

5.3 サーバ帳票出力機能について

5.3.1 対象製品

- V5 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 5-3. 移行製品

EUR V5		EUR V11
EUR Print Service	→	(*1)
EUR Print Service EUR Print Service - Portable Document Format report EUR Print Service - EUR report	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard
EUR Print Service - Portable Document Format report Cipher option	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option

(*1) 従来、EUR Print Service で提供していたサーバ帳票印刷専用の製品は、V11 ではご用意しておりませんので、V11 の新規ご購入をお願いいたします。

V11 を新規導入する場合は、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard、または、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のご検討をお願いいたします。

5.3.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V5 のサーバ帳票出力で使用していたフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

5.3.3 起動インタフェースの互換性について

V11 のサーバ実行環境では、起動インタフェースを「EUR Server - Adapter (コマンド、Java、ActiveX、COBOL)」として提供します。

新たに開発するプログラムでは EUR Server - Adapter の使用をおすすめしますが、V5 の起動インタフェースも互換機能として利用できます。ただし、製品構成の変更に伴い V5 と V11 ではフォルダ構成が異なりますので、実行ファイル等のパスをプログラムや環境設定で指定している場合は変更が必要です。

(1) コマンドの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V5 と互換性があります。
V5 の eurps コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。
- コマンドの実行ファイルの格納先が変わるため、プログラムでコマンドをフルパスで呼び出しているときは、呼び出し部分の処理を変更してください。
- OS の環境変数などでコマンドの実行ファイルの格納先にパスを通しているときは、パスの設定を変更してください。

(2) ActiveX 起動インタフェースの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V5 と互換性があります。
V5 の ActiveX 起動部品で指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(3) JavaBeans 起動部品の互換性について

- JavaBeans 起動部品の格納先が変わるため、クラスパス、およびライブラリのパスの設定を変更してください。
クラスパス、およびライブラリのパスの設定方法については、ご使用の JSP 環境のマニュアルを参

照してください。

- プロパティファイル (EURPSManager.properties) にパス情報が含まれるため、プログラムにプロパティファイルを取り込んでいるときは、プロパティファイルを修正してリビルドしてください。
- V11 では JavaBeans 起動部品として EURPSManager_5.jar を提供しています。
V5(05-08)以前に提供していた EURPSManager.jar を使用している場合は、クラスパスの指定を EURPSManager_5.jar に変更する必要があります。
アプリケーションサーバのアプリケーション内に EURPSManager.jar を含めている場合、EURPSManager_5.jar に入れ替え、再デプロイする必要があります。
インタフェースには変更はありませんので、プログラムの変更およびリコンパイルは不要です。
- JavaBeans 起動部品のエラーログとトレースログの出力機能を廃止しました。
eurps ログは、引き続き出力されます。
- V11 が前提とする JDK のバージョンは、JDK8 以降です。

5.3.4 EUR 形式ファイルの互換性について

- V11 のサーバ製品で生成した EUR 形式ファイルは、V5 のクライアント製品でも表示/印刷を行えますので、サーバ製品だけのバージョンアップも可能です。
ただし、EUR 形式ファイルをクライアントで表示/印刷できるかどうかは、EUR 形式ファイルに含まれる帳票定義ファイル(*.fms)のバージョンに依存しますので、V5 のクライアント製品を使用する場合は V5 以前で作成した帳票定義ファイル(*.fms)で EUR 形式ファイルを生成してください。

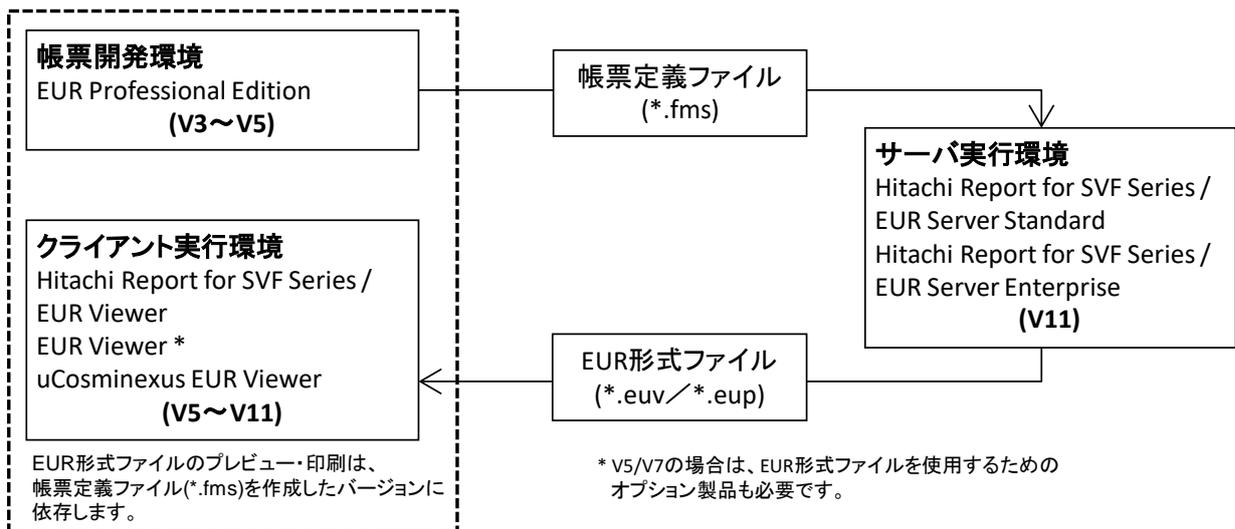


図 5-1. クライアントとサーバのバージョンの組み合わせ

5.3.5 他製品との連携機能について

- 「JP1/Network Printing System」と連携した仕分け印刷機能は、64bit ネイティブ対応に伴いサポート対象外となりました。
V11 では、EUR Server Enterprise の標準機能として提供する仕分け印刷機能をご利用ください。
- FAXC/SPOOL と連携した FAX 自動送信機能はサポート対象外になりました。
FAX ドライバを指定して対話型で FAX 送信する機能は従来どおりご使用いただけます。
なお、FAXC/SPOOL 以外で連携実績がある製品を EUR ホームページに掲載していますので、ご参照ください。

■ 帳票ツール EUR : 帳票ソリューション
<https://www.hitachi.co.jp/soft/eur/related/>

5.3.6 移行後の注意事項について

(1) PDF バージョン番号について

- V5(05-08)以降で生成する PDF 形式ファイルの PDF バージョン番号は 1.6 です。PDF バージョン番号が 1.6 のファイルを開く場合は Adobe Reader7.0 以降が必要となります。V5(05-06)までの PDF バージョン番号 1.2 で出力する場合は、環境変数「EURPS_OUTPUTPDF_VER」で「1.2」を指定してください。

(2) トレースファイルの出力について

- V5(05-05)以降では、印刷や PDF 出力時にログ出力先フォルダにトレース情報(ファイル)を出力します。

トレース情報は、次の障害が発生した場合の障害調査に役立ちます。

- サーバ帳票出力機能がエラー終了し、帳票が出力されなかったとき。
- サーバ帳票出力機能は正常終了したが、帳票が出力されない、または出力結果が不正だったとき。

ただし、トレースファイルは実行ごとに別ファイルで作成されていきますので、不要な場合はユーザが削除する必要があります。

トレースファイルの出力を抑止するには、環境変数「EURPS_TRACE」で「NO」を指定してください。

(3) 文字幅計算方法についての注意事項

- V5 以前の帳票作成機能で作成した帳票を V11 で出力する場合は、文字幅計算方法を静的モード(デフォルト)で出力してください。動的モードで出力した場合、フォントの印字や表示の位置が異なる場合があります。

※V8 から、固定ピッチフォントに加え可変ピッチフォント(プロポーショナルフォント)を使用できるようにしました。そのため、固定ピッチフォントの文字幅計算方法に、プロポーショナルフォントを出力するときと同じ計算をする方法(動的モード)が追加されました。

(4) 出力結果の確認について

- V11 に移行後、出力テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります。

5.3.7 インストールについて

- V5 と V11 では対応 OS が異なるため、上書きインストールはできません。
- 環境設定ファイル(EURPS_ENV または eurps_env)とプリンタ定義ファイル(printerinf)を作成していた場合は、バックアップをとって V11 の環境に移行してください。
- V11 では製品体系の変更に伴い、サーバ製品のデフォルトのインストール先を以下のフォルダに統合しました。

Windows 版 C:\Program Files\HITACHI\EUR

UNIX/Linux 版 /opt/eur/

5.3.8 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

5.3.9 スプールタイトル指定機能サポート

- 文書情報設定ファイルを利用してスプールタイトルを指定する機能に加え、業務アプリケーションから動的にスプールタイトルのパラメタが指定できるようになりました。(SpoolTitle プロパティが追加になりました)
これにより、蓄積された帳票の印刷時および直接印刷時にプリンタの印刷ジョブ確認画面にて、SpoolTitle プロパティで指定したタイトル名称とスプールのドキュメント名が一致するため、どの帳票が印刷されたか、よりわかりやすくなります。

5.4 クライアント帳票出力機能について

5.4.1 対象製品

- V5 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 5-4. 移行製品

EUR V5	EUR V11
EUR Viewer	Hitachi Report for SVF Series / EUR Viewer

5.4.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V5 のクライアント帳票出力で使用していたフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

5.4.3 EUR 形式ファイルの互換性について

- V5 で生成した EUR 形式ファイルは V11 でも印刷やプレビューが可能です。

5.4.4 起動インタフェースの互換性について

V11 のクライアント実行環境では、起動インタフェースをコマンドおよび OLE オートメーションとして提供します。

新たに開発するプログラムではコマンドまたは OLE オートメーションの使用をおすすめしますが、V5 の起動インタフェース (OCX および DLL インタフェース関数) も互換機能として利用できます。ただし、製品構成の変更に伴い V5 と V11 ではフォルダ構成が異なりますので、実行ファイル等のパスをプログラムや環境設定で指定している場合は変更が必要です。

(1) コマンドの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V5 と互換性があります。
V5 の `apgrpt` コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。
- EUR 形式ファイルの印刷またはプレビューを行っている場合、V5 と V11 では、`eurer` コマンドの実行ファイルの格納先フォルダが異なります。プログラムで `eurer` コマンドをフルパスで呼び出しているときは、呼び出し部分の処理を変更してください。
また、OS の環境変数などで `eurer` コマンドの実行ファイルの格納先にパスを通しているときは、パスの設定を変更してください。
V5 の `eurer` コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。

(2) OLE オートメーションの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V5 と互換性があります。
V5 の OLE オートメーションで指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(3) OCX の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V5 と互換性があります。
V5 の OCX で指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(4) DLL インタフェース関数の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V5 と互換性があります。
V5 の DLL インタフェース関数で指定していたキーワードは、V11 でもそのまま使用できます。

5.4.5 他製品との連携機能について

- FAXC/SPOOL と連携した FAX 自動送信機能はサポート対象外となりました。
FAX ドライバを指定して対話型で FAX 送信する機能は従来どおりご使用いただけます。
なお、FAXC/SPOOL 以外で連携実績がある製品を EUR ホームページに掲載していますので、ご参照ください。

■帳票ツール EUR：帳票ソリューション
<https://www.hitachi.co.jp/soft/eur/related/>

5.4.6 移行後の注意事項について

(1) スタートメニューからの新規ウィンドウ起動について

- V5 では、スタートメニューから新規ウィンドウを起動して帳票を開くと、データファイル(*.csv)は [オプション] ダイアログの [ファイル] タブで指定されているフォルダから読み込まれます。そのため、任意のフォルダからデータを読み込むには、帳票を表示した後に [オプション] ダイアログでデータファイルの読み込み先フォルダの設定を変更する必要がありました。
V11 (08-20 以降)では、スタートメニューから新規ウィンドウを起動すると、プレビューする帳票定義ファイル(*.fms)やデータファイル(*.csv)などを指定するダイアログを表示します。
スタートメニューから新規ウィンドウの起動後すぐに任意の帳票とデータを指定して帳票をプレビューできます。

(2) 文字幅計算方法についての注意事項

- V5 の帳票作成機能で作成した帳票を V11 で表示するときは、文字幅計算方法を静的モード(デフォルト)にしてください。動的モードで表示した場合、フォントの表示位置が異なる場合があります。
※V8 から、固定ピッチフォントに加え可変ピッチフォント(プロポーショナルフォント)を使用できるようにしました。そのため、固定ピッチフォントの文字幅計算方法に、プロポーショナルフォント出力時と同じ計算方法(動的モード)が追加されました。

(3) 出力結果の確認について

- V11 に移行後、出力テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります。

5.4.7 インストールについて

- V5 と V11 では対応 OS が異なるため、上書きインストールはできません。
- 環境設定ファイル (EUR_ENV) とプリンタ定義ファイル (printerinf) を作成していた場合は、バックアップをとって V11 の環境に移行してください。

5.4.8 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。
ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

5.5 統合印刷管理実行環境について

5.5.1 対象製品

- V5 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 5-5. 移行製品

EUR V5		EUR V11
EUR Print Manager EUR Print Service - EUR Print Format report	→	EUR Server Standard
EUR Print Manager EUR Print Manager - Local Server EUR Print Service - EUR Print Format report	→	EUR Server Enterprise
EUR Print Manager - Client	→	EUR Server - Client

- V11 では、各コンポーネントの名称を以下のように変更しました。

表 5-6. コンポーネントの名称変更

EUR V5	EUR V11
EUR Print Manager	EUR Server Service
EUR Print Manager - Adapter	EUR Server Service - Adapter
EUR Print Manager - Local Server	EUR Server - Spool Service
EUR Print Manager - Local Server Adapter	EUR Server - Spool Service Adapter
EUR Print Manager - Client	EUR Server - Client
EUR Print Manager - Client (常駐版、ヘルパ)	EUR Client Service
EUR Print Manager - Client ActiveX	EUR Web Plug-In

5.5.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V5 のサーバ帳票出力で使用していたフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

5.5.3 EPF 形式ファイルの互換性について

- V5 で生成した EPF 形式ファイルは V11 でも印刷やプレビューが可能です。
- V5 で蓄積した帳票は、V11 でも印刷やプレビューが可能です。

5.5.4 起動インタフェースの互換性について

V11 の起動インタフェースは V5 と互換性があります。

ただし、製品構成の変更に伴い V5 と V11 ではフォルダ構成が異なりますので、実行ファイル等のパスをプログラムや環境設定で指定している場合は変更が必要です。

(1) コマンドの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V5 と互換性があります。
V5 の eurpmc コマンドおよび eurpmlsc コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。
- コマンドの実行ファイルの格納先が変わるため、プログラムでコマンドをフルパスで呼び出してい

るときは、呼び出し部分の処理を変更してください。

- OS の環境変数などでコマンドの実行ファイルの格納先にパスを通しているときは、パスの設定を変更してください。

(2) ActiveX 起動部品の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V5 と互換性があります。
V5 の ActiveX 起動部品で指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(3) Java 起動部品の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V5 と互換性があります。
V5 の Java 起動部品で指定していたメソッドは、V11 でもそのまま使用できます。
- Java 起動部品の格納先が変わるため、クラスパス、およびライブラリのパスの設定を変更してください。クラスパス、およびライブラリのパスの設定方法については、ご使用の JSP 環境のマニュアルを参照してください。
- V11 が前提とする JDK のバージョンは、JDK8 以降です。

(4) COBOL 起動部品の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V5 と互換性があります。
V5 の COBOL 起動部品で指定していた関数とパラメータは、V11 でもそのまま使用できます。
- COBOL 起動部品の格納先が変わるため、COBOL 起動部品のパスの設定を変更してください。

(5) ActiveX 部品 (EUR Web Plug-In) の互換性について

- V11 の起動インタフェースは V5 と互換性があります。
V5 で、HTML の<object>タグに指定していたパラメータ、メソッドおよびプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。
- V11 で使用できる Web ブラウザは、次の通りです。
32 ビット版の Internet Explorer 11
Microsoft Edge(Chromium 版)の IE モード
(Microsoft 社は、Internet Explorer 11 のサポートを 2022 年に終了しました。また、Microsoft Edge の IE モードは少なくとも 2029 年までサポートされると発表していますが、IE モードのサポートも終了した場合、「EUR Web Plug-In」は使用できなくなります。そのため、今後は「EUR Web Plug-In」の使用をお勧めしません。)

5.5.5 環境設定ファイルの項目について

- EUR Print Service のプログラムファイルのフォルダを指定するキー項目を削除しました。
EUR Print Service のプログラムファイルのフォルダは、インストール先から自動的に取得されます。
環境設定ファイルでこれらのキー項目を指定している場合は削除してください。

表 5-7. 削除したキー

環境設定ファイル	セクション	キー
EUR Print Manager (EURPM.ini)	[PATH]	EURPS
EUR Print Manager - Local Server (EURPMLS.ini)	[PATH]	EURPS

- FAXC/SPOOL と連携した FAX 自動送信機能はサポート対象外となりました。
そのため、FAX 情報ファイルの格納フォルダを指定するキー項目を削除しました。
環境設定ファイルでこのキー項目を指定している場合は削除してください。

表 5-8. 削除したキー

環境設定ファイル	セクション	キー
EUR Print Manager (EURPM.ini)	[PATH]	FAXINFO

- EUR Print Manager - Local Server での印刷処理をスレッドで行うか、またはプロセスを起動して行うかを指定するキー項目を削除しました。V11 では、プロセスを起動して印刷処理を行います。
環境設定ファイルでこのキー項目を指定している場合は削除してください。

表 5-9. 削除したキー

環境設定ファイル	セクション	キー
EUR Print Manager - Local Server (EURPMLS.ini)	[THREAD]	PRINTEXECMODE

5.5.6 インストールについて

- V5 と V11 では対応 OS が異なるため、上書きインストールはできません。
- V5 で作成した環境設定ファイル(*.ini)およびプリンタクラス定義ファイルなどの定義ファイル (*.conf)はバックアップをとって、V11 の環境へ移行してください。
- V11 では製品体系の変更に伴い、サーバ製品のデフォルトのインストール先を以下のフォルダに統合しました。
Windows 版 C:\Program Files\HITACHI\EUR

5.5.7 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。
ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

5.5.8 スプールタイトル指定機能サポート

- 文書情報設定ファイルを利用してスプールタイトルを指定する機能に加え、業務アプリケーションから動的にスプールタイトルのパラメタが指定できるようになりました。(SpoolTitle プロパティが追加になりました)
これにより、蓄積された帳票の印刷時および直接印刷時にプリンタの印刷ジョブ確認画面にて、SpoolTitle プロパティで指定したタイトル名称とスプールのドキュメント名が一致するため、どの帳票が印刷されたか、よりわかりやすくなります。

6.V4 から V11 への移行

この章では、V4 の製品から V11 の製品へ移行する時の互換性および注意事項について説明します。

6.1 EUR V4 と EUR V11 の製品体系の差異

6.1.1 製品体系

- V11 ではオプション製品を整理統合し、新しい製品体系になりました。
- 従来、EUR Print Service で提供していたサーバ帳票印刷専用の製品は、V11 ではご用意しておりませんので、V11 の新規ご購入をお願いいたします。V11 を新規導入する場合は、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard、または、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のご検討をお願いいたします。

表 6-1. バージョン間の製品体系の差異

	EUR V4		EUR V11
開発環境	EUR Professional Edition	➔	Hitachi Report for SVF Series / EUR Developer (*1)

(*1) 統合開発環境です。

Hitachi Report for SVF Series / EUR Designerに加え、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise の機能を利用したテストまで行えます。

	EUR V4		EUR V11
サーバ実行環境	EUR Print Service		(*2)
	EUR Print Service		
	EUR Print Service - Portable Document Format report	➔	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard (*3)
	EUR Print Service - EUR report		
	EUR Print Service - Portable Document Format report Cipher Option	➔	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option

(*2) 従来、EUR Print Service で提供していたサーバ帳票印刷専用の製品は、V11 ではご用意しておりませんので、V11 の新規ご購入をお願いいたします。

V11 を新規導入する場合は、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard、または、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のご検討をお願いいたします。

(*3) EUR Print Service と PDF/EUR 形式ファイル出力オプション製品を統合し、1 製品になりました。

	EUR V4		EUR V11
クライアント実行環境	EUR Viewer	➔	Hitachi Report for SVF Series / EUR Viewer (*4)
	EUR Viewer - EUR report		

(*4) EUR Viewer と EUR 形式ファイル出力オプションを統合し、1 製品になりました。

6.2 帳票作成機能について

6.2.1 対象製品

- V4 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 6-2. 移行製品

EUR V4	→	EUR V11
EUR Professional Edition		Hitachi Report for SVF Series / EUR Designer

6.2.2 帳票定義ファイルの互換性について

(1) 帳票定義ファイルの保存形式について

- V4 では帳票定義ファイルの形式にフォームシートファイル(*.fms)とレポートファイル(*.agr)の 2 種類がありますが、V11 で保存できる形式はフォームシートファイル(*.fms)だけです。レポートファイル(*.agr)は、表示したり印刷したりできますが、上書き保存はできません。レポートファイル(*.agr)を開いた時は、同じファイル種別で保存できないことを示すメッセージが表示されますので編集結果を保存したい場合は、フォームシートファイル(*.fms)として保存してください。
- データ込みで保存されているレポートファイル(*.agr)を V11 で開くと、レポートファイルと一緒に保存されているデータは表示されません。帳票作成機能が生成したサンプルデータで表示します。表示するデータは、レポートファイルとは別に CSV 形式ファイル等で準備しておく必要があります。マッピングデータのウィンドウを選択して「データ」-「データファイル指定」でデータファイルを指定してから、フォームシートファイル(*.fms)で保存し直してください。

(2) データベース連携機能について

- V4 と V11 ではデータベース連携機能に互換性はありません。そのため、V4 作成したデータベースを使用するレポートファイル(*.agr)を V11 で開いた場合、警告を示すメッセージダイアログを表示してデータベース情報を削除しますので、データベースアクセス定義画面で定義し直す必要があります。
- V4 のデータベースアクセス定義画面では、ODBC ドライバを提供するデータベースに接続できましたが、V11 で接続可能なデータベースは HiRDB、Oracle、Microsoft SQL Server の 3 種類です。その他のデータベースには接続できません。この 3 種類以外のデータベースをご使用されていた場合は、CSV 形式ファイルによる連携に変更していただくなどの修正が必要となります。
- V11 でデータベース連携機能を使用する場合は、データベースアクセスミドルウェア「DABroker」が必要です。Hitachi Report for SVF Series / EUR Developer は、DABroker(Windows 版)を同梱していますので、Hitachi Report for SVF Series / EUR Developer と同じマシンにインストールしてご利用ください。
- Hitachi Report for SVF Series / EUR Designer は DABroker を提供しません。データベース連携機能を使用する場合は、同一システム内の DABroker へ接続するか、別途 DABroker をご購入ください。
- V4 ではレポートファイル(*.agr) ファイルを開くと同時にテーブル検索しておりましたが、V11 では明示的に検索を行わないとマッピングデータウィンドウにデータが反映されません。

(3) OLE 埋め込みオブジェクトについて

- V4 では画像や Excel で作成したグラフを OLE 埋め込みオブジェクトとして帳票に貼り付けられましたが、V11 では OLE 埋め込みオブジェクトを使用できません。V4 で作成した OLE 埋め込みオブジェクトが貼り付けられたレポートファイル(*.agr)を V11 で開いても、OLE 埋め込みオブジェクトは表示も印刷もできません。画像ファイルとして生成し、画像アイテムとして貼り付ける等、帳票定義の変更が必要です。

(4) デクシヨナリファイルについて

- V11 では実行時にデクシヨナリファイルの指定は不要となりました。デクシヨナリファイルを使用して作成されている帳票定義ファイルを V11 で使用するには、デクシヨナリファイルを使用しない形式で保存し直す必要があります。
V11 の帳票作成機能で帳票定義ファイルを開き、[データのプロパティ] ダイアログの「フィールド定義方法」でデクシヨナリファイルを指定します。データウィンドウにデクシヨナリファイルで指定したフィールド名が表示されていることを確認後、フィールド定義情報の定義方法を「標準」にして保存し直してください。
データ種別等のフィールド定義情報がフォームシートファイル(*.fms)内に保存され、デクシヨナリファイルが不要になります。

(5) 固定画像データの扱いについて

- V4 と V11 では、固定画像の扱いが異なります。
V4 ではフォームシートファイル(*.fms)に画像ファイル名だけを保存したため、フォームシートファイルとは別に画像ファイルも準備する必要がありました。
V11 では、固定画像データもフォームシートファイル内に保存するため環境ごとに固定画像用の画像ファイルを準備する必要がなくなりました。異なる画像データを同じファイル名称で入れ替えて使用しているような場合は、ユーザ定義データでの指定に変更する必要があります。

(6) アプリケーション開発環境「APPGALLERY」のテーブル部品との連携について

- V4 では、Windows のクリップボードからマッピングデータ、ユーザ定義データを入力することができましたが、V11 ではデータファイル指定、またはデータベース連携のみとなりました。
このため、APPGALLERY のテーブル部品と連携したレポートファイル(*.agr)の場合は、マッピングデータ、ユーザ定義データをデータファイル指定、またはデータベース連携に変更する必要があります。
移行前に、マッピングデータ、ユーザ定義データを用意して、フォームシートファイル(*.fms)として保存し直してください。

6.2.3 移行後の注意事項について

(1) 文字幅計算方法について

- V4 の帳票作成機能で作成した帳票を V11 で表示するときは、文字幅計算方法を静的モード(デフォルト)にしてください。動的モードで表示した場合、フォントの表示位置が異なる場合があります。
※V8 から、固定ピッチフォントに加え可変ピッチフォント(プロポーショナルフォント)を使用できるようにしました。そのため、固定ピッチフォントの文字幅計算方法に、プロポーショナルフォント出力時と同じ計算方法(動的モード)が追加されました。

(2) 出力結果の確認について

- V11 に移行後、出力テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります。

6.2.4 インストールについて

- V4 と V11 では対応 OS が異なるため、上書きインストールはできません。
- 作成したフォームシートファイルやレポートファイルなどを V4 のインストールフォルダ下に保存している場合は、バックアップをとって V11 の環境に移行してください。
- V11 では、デフォルトのインストール先を以下のフォルダに変更しました。
C:¥Program Files¥HITACHI¥EUR

6.2.5 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。
ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

6.3 サーバ帳票出力機能について

6.3.1 対象製品

- V4 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 6-3. 移行製品

EUR V4		EUR V11
EUR Print Service	→	(*1)
EUR Print Service EUR Print Service - Portable Document Format report EUR Print Service - EUR report	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard
EUR Print Service - Portable Document Format report Cipher option	→	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server - Cipher option

(*1) 従来、EUR Print Service で提供していたサーバ帳票印刷専用の製品は、V11 ではご用意しておりませんので、V11 の新規ご購入をお願いいたします。

V11 を新規導入する場合は、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard、または、Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise のご検討をお願いいたします。

6.3.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V4 のサーバ帳票出力で使用していたフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。

6.3.3 起動インタフェースの互換性について

V11 のサーバ実行環境では、起動インタフェースを「EUR Server – Adapter (コマンド、Java、ActiveX、COBOL)」として提供します。

新たに開発するプログラムでは EUR Server - Adapter の使用をおすすめしますが、V4 の起動インタフェースも互換機能として利用できます。ただし、製品構成の変更に伴い V4 と V11 ではフォルダ構成が異なりますので、実行ファイル等のパスをプログラムや環境設定で指定している場合は変更が必要です。

(1) コマンドの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V4 と互換性があります。
V4 の `eurps` コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。
- コマンドの実行ファイルの格納先が変わるため、プログラムでコマンドをフルパスで呼び出しているときは、呼び出し部分の処理を変更してください。
- OS の環境変数などでコマンドの実行ファイルの格納先にパスを通しているときは、パスの設定を変更してください。

(2) ActiveX 起動インタフェースの互換性について

- V11 の起動インタフェースは V4 と互換性があります。
V4 の ActiveX 起動部品で指定していたメソッドとプロパティは、V11 でもそのまま使用できます。

(3) JavaBeans 起動部品の互換性について

- V11 では JavaBeans 起動部品として `EURPSManager_5.jar` を提供しています。
V4 で提供していた `EURPSManager.jar` を使用している場合は、クラスパスの指定を `EURPSManager_5.jar` に変更する必要があります。

クラスパス、およびライブラリのパスの設定方法については、ご使用の JSP 環境のマニュアルを参照してください。

アプリケーションサーバのアプリケーション内に EURPSManager.jar を含めている場合、EURPSManager_5.jar に入れ替え、再デプロイする必要があります。

インタフェースには変更はありませんので、プログラムの変更およびリコンパイルは不要です。

- プロパティファイル (EURPSManager.properties) にパス情報が含まれるため、プログラムにプロパティファイルを取り込んでいるときは、プロパティファイルを修正してリビルドしてください。
- V11 が前提とする JDK のバージョンは、JDK8 以降です。

6.3.4 EUR 形式ファイルの互換性について

- V11 のサーバ製品で生成した EUR 形式ファイルは、V4 のクライアント製品では表示/印刷を行えません。読み込み時にエラーになります。クライアント製品も合わせてバージョンアップをお願いいたします。

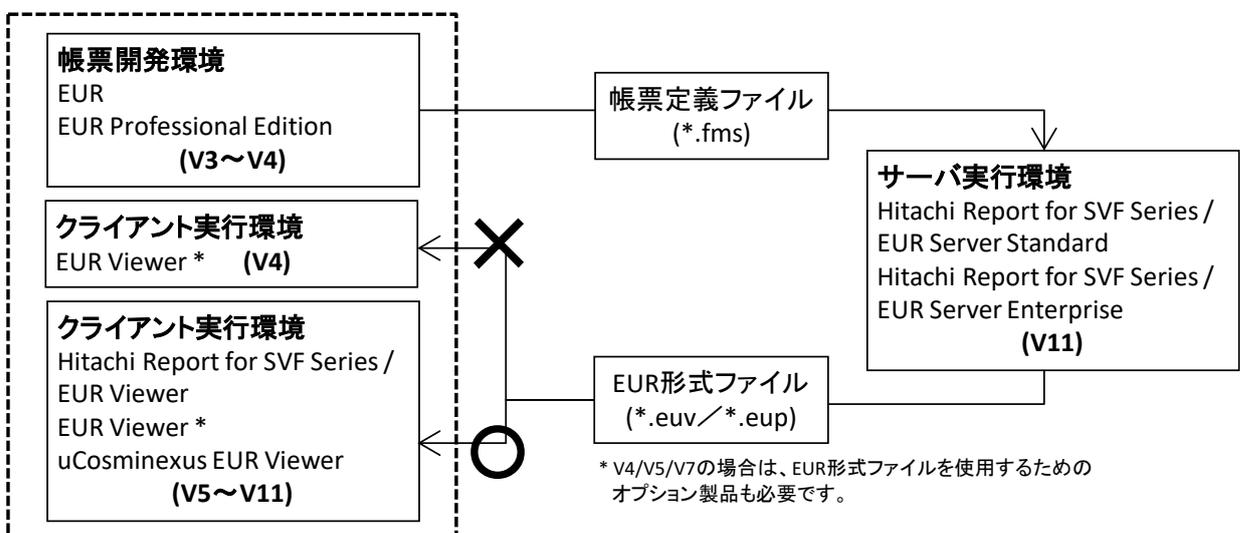


図 6-1. クライアントとサーバのバージョンの組み合わせ

6.3.5 他製品との連携機能について

- 「JP1/Network Printing System」と連携した仕分け印刷機能は、64bit ネイティブ対応に伴いサポート対象外となりました。V11 では、EUR Server Enterprise の標準機能として提供する仕分け印刷機能をご利用ください。
- 「FAXC/SPOOL」と連携した FAX 自動送信機能はサポート対象外となりました。FAX ドライバを指定して対話型で FAX 送信する機能は従来どおりご使用いただけます。なお、FAXC/SPOOL 以外で連携実績がある製品を EUR ホームページに掲載していますので、ご参照ください。

■ 帳票ツール EUR : 帳票ソリューション
<https://www.hitachi.co.jp/soft/eur/related/>

6.3.6 移行後の注意事項について

(1) PDF バージョン番号について

- V11 で生成する PDF 形式ファイルの PDF バージョン番号は 1.6 です。PDF バージョン番号が 1.6 のファイルを開く場合は Adobe Reader7.0 以降が必要となります。V4 の PDF バージョン番号 1.2 で出力する場合は、環境変数「EURPS_OUTPUTPDF_VER」で「1.2」を指定してください。

(2) トレースファイルの出力について

- V11 では印刷や PDF 出力時にログ出力先フォルダにトレース情報(ファイル)を出力します。トレース情報は、次の障害が発生した場合の障害調査に役立ちます。
 - サーバ帳票出力機能がエラー終了し、帳票が出力されなかったとき。
 - サーバ帳票出力機能は正常終了したが、帳票が出力されない、または出力結果が不正だったとき。

ただし、トレースファイルは実行ごとに別ファイルで作成されていきますので、不要な場合はユーザが削除する必要があります。

トレースファイルの出力を抑止するには、環境変数「EURPS_TRACE」で「NO」を指定してください。

(3) 文字幅計算方法について

- V4 以前の帳票作成機能で作成した帳票を V11 で出力する場合は、文字幅計算方法を静的モード(デフォルト)で出力してください。動的モードで出力した場合、フォントの印字や表示の位置が異なる場合があります。
※V8 から、固定ピッチフォントに加え可変ピッチフォント(プロポーショナルフォント)を使用できるようにしました。そのため、固定ピッチフォントの文字幅計算方法に、プロポーショナルフォントを出力するときと同じ計算をする方法(動的モード)が追加されました。

(4) 固定画像の扱いについて

- 固定画像を定義した帳票を V11 の帳票作成機能で保存すると固定画像データもフォームシートファイルの中に保持するようになりました。V4 のフォームシートファイルと V11 のフォームシートファイルが混在するような環境では固定画像の指定方法が異なりますのでご注意ください。異なる画像データを同じファイル名称で入れ替えて使用しているような場合、次のいずれかの対応が必要です。
 - 環境変数「EURPS_LOCATION_FIXIMAGE」で「EXTERNAL」を指定する。(EUR 形式ファイル出力時以外。)
 - V11 で作成するフォームシートではユーザ定義データでの指定に変更する。

(5) 出力結果の確認について

- V11 に移行後、出力テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります。

6.3.7 インストールについて

- V4 と V11 では対応 OS が異なるため、上書きインストールはできません。
- 環境設定ファイル(EURPS_ENV または eurps_env)とプリンタ定義ファイル(printerinf)を作成していた場合は、バックアップをとって V11 の環境に移行してください。
- V11 では製品体系の変更に伴い、サーバ製品のデフォルトのインストール先を以下のフォルダに統合しました。

Windows 版 C:\Program Files\HITACHI\EUR

UNIX/Linux 版 /opt/eur/

6.3.8 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。
ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

6.4 クライアント帳票出力機能について

6.4.1 対象製品

- V4 製品の機能を利用できる V11 製品は以下の通りです。

表 6-4. 移行製品

EUR V4	EUR V11
EUR Viewer	Hitachi Report for SVF Series / EUR Viewer

6.4.2 帳票定義ファイルの互換性について

- V4 のクライアント帳票出力で使用していたフォームシートファイル(*.fms)は、V11 の環境でそのまま使用できます。
- V4 のクライアント帳票出力で使用していたレポートファイル(*.agr)は、V11 でのサポート機能の変更に伴い、帳票定義の変更が必要となる場合があります。
サポート機能の変更については、「6.2.2 帳票定義ファイルの互換性について」を参照してください。変更内容に該当しない場合は、レポートファイル(*.agr)をそのまま使用できます。

6.4.3 EUR 形式ファイルの互換性について

- V4 で生成した EUR 形式ファイルは V11 でも印刷やプレビューが可能です。

6.4.4 起動インタフェースの互換性について

(1) 帳票定義ファイルの保存形式について

- 帳票ファイルの保存形式の違いにより、帳票定義ファイルの名称を変更した場合(拡張子 agr → fms)、各起動インタフェースやオプション記述ファイルで指定されているファイル名を変更する必要があります。
- データを含むレポートファイル(*.agr)の場合、ファイル拡張子の変更に加え、レポートファイル中のデータは読み出さないため、マッピングデータ、ユーザ定義データを外部ファイル、またはデータベース連携に変更する必要があります。

(2) データベース連携機能について

- V4 と V11 では、データベース連携機能に互換性はありません。
クエリファイルを含むレポートファイル(*.agr)を V11 で使用しても、クエリファイルは読み込まれません。また、V11 ではクエリファイルに代わるものは提供しません。クエリファイルを使用していたユーザプログラムは、接続情報ファイルと可変記号値定義ファイルを使用するように変更が必要です。
- V4 のデータベース連携に関連する、オプション記述ファイルのキーワード、OLE オートメーションおよび OCX のプロパティは、V11 で提供するキーワードまたはプロパティに変更する必要があります。使用できなくなる V4 のキーワード、およびプロパティを次の表に示します。

表 6-5. 使用できなくなるキーワード又はプロパティ

オプション記述 ファイルの キーワード	OLE オートメーションのプロパティ		OCX のプロパティ
	オブジェクト	プロパティ	
MappingQueryFile UserDefQueryFile MappingQueryPath UserDefQueryPath	Application	MapQueryBasePath UserQueryBasePath	ConnectionString DataSource
	MappingData	ConnectionString DataSource Query QueryFileName	Query QueryFileName QueryFilePath UserConnectionString
	UserDefinedData	ConnectionString DataSource Query QueryFileName	UserDataSource UserQuery UserQueryFileName UserQueryFilePath

DataSource プロパティ、および ConnectionString プロパティに相当する情報は、接続情報ファイルに記述します。

Query プロパティに相当する情報は、帳票定義時にデータベースアクセス定義ウィンドウで再定義が必要です。

データベースアクセス定義ウィンドウで定義された抽出条件は、フォームシートファイルの中に保存され、データ抽出時に使用されます。

また、特定の条件値に合うデータだけを抽出するには、データベースアクセス定義ウィンドウで条件式を指定時に可変記号定義を行い、実行時に変更となる条件値を可変記号値定義ファイルで指定することで抽出できます。

(3) ディクショナリファイルについて

- V11 では実行時にディクショナリファイルの指定が不要となりました。

ディクショナリファイルを使用しているユーザプログラムは、オプション記述ファイルのキーワードを見直し不要な記述を削除する必要があります。また、OLE オートメーション、OCX を使用している場合は、不要なプロパティを削除する必要があります。使用できなくなる V4 のキーワード、およびプロパティを次の表に示します。

表 6-6. 使用できなくなるキーワード又はプロパティ

オプション記述 ファイルの キーワード	OLE オートメーションのプロパティ		OCX のプロパティ
	オブジェクト	プロパティ	
MappingDicFile UserDefDicFile MappingDicPath UserDefDicPath	Application	MapDictionaryBasePath UserDictionaryBasePath	DictionaryFileName DictionaryFilePath UserDictionaryFileName
	Document	DictionaryFile VarDictionaryFile	UserDictionaryFilePath
	MappingData	DictionaryFileName	
	UserDefineData	DictionaryFileName	

(4) 固定画像の扱いについて

- 固定画像を定義した帳票を V11 の帳票作成機能で保存すると固定画像データもフォームシートファイルの中に保持するようになりました。V11 で保存したフォームシートファイルを使用する場合は、オプション記述ファイルのキーワード、OLE オートメーションおよび OCX のプロパティでの画像ファイル格納先の指定は無効になります。異なる画像データを同じファイル名称で入れ替えて使用しているような場合は、ユーザ定義データでの指定に変更する必要があります。

V4 のフォームシートファイルと V11 のフォームシートファイルが混在するような環境では固定画像の指定方法が異なりますのでご注意ください。

(5) EUR 形式ファイルの印刷またはプレビューについて

- V4 と V11 では、`eurer` コマンドの実行ファイルの格納先フォルダが異なります。プログラムで `eurer` コマンドをフルパスで呼び出しているときは、呼び出し部分の処理を変更してください。また、OS の環境変数などで `eurer` コマンドの実行ファイルの格納先にパスを通しているときは、パスの設定を変更してください。

V4 の `eurer` コマンドで指定していたオプションは、V11 でもそのまま使用できます。

(6) OCX および DLL インタフェース関数について

- V11 のクライアント実行環境では、起動インタフェースをコマンドおよび OLE オートメーションとして提供します。
新たに開発するプログラムではコマンドまたは OLE オートメーションの使用をおすすめしますが、V4 の起動インタフェース (OCX および DLL インタフェース関数) も互換機能として利用できます。

6.4.5 他製品との連携機能について

- FAXC/SPOOL と連携した FAX 自動送信機能はサポート対象外となりました。FAX ドライバを指定して対話型で FAX 送信する機能は従来どおりご使用いただけます。なお、FAXC/SPOOL 以外で連携実績がある製品を EUR ホームページに掲載していますので、ご参照ください。

■ 帳票ツール EUR : 帳票ソリューション
<https://www.hitachi.co.jp/soft/eur/related/>

6.4.6 移行後の注意事項

(1) スタートメニューからの新規ウィンドウ起動について

- V4 では、スタートメニューから新規ウィンドウを起動して帳票を開くと、データファイル(*.csv)は [オプション] ダイアログの [ファイル] タブで指定されているフォルダから読み込まれます。そのため、任意のフォルダからデータを読み込むには、帳票を表示した後に [オプション] ダイアログでデータファイルの読み込み先フォルダの設定を変更する必要がありました。V11 (08-20 以降)では、スタートメニューから新規ウィンドウを起動すると、プレビューする帳票定義ファイル(*.fms)やデータファイル(*.csv)などを指定するダイアログを表示します。
- スタートメニューから新規ウィンドウの起動後すぐに任意の帳票とデータを指定して帳票をプレビューできます。

(2) 文字幅計算方法についての注意事項

- V4 の帳票作成機能で作成した帳票を V11 で表示するときは、文字幅計算方法を静的モード(デフォルト)にしてください。動的モードで表示した場合、フォントの表示位置が異なる場合があります。
※V8 から、固定ピッチフォントに加え可変ピッチフォント(プロポーショナルフォント)を使用できるようにしました。そのため、固定ピッチフォントの文字幅計算方法に、プロポーショナルフォント出力時と同じ計算方法(動的モード)が追加されました。

(3) 出力結果の確認について

- V11 に移行後、出力テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります。

6.4.7 インストールについて

- V4 と V11 では対応 OS が異なるため、上書きインストールはできません。
- プリンタ定義ファイル (printerinf) を作成していた場合は、バックアップをとって V11 の環境に移行してください。

6.4.8 ヘルプについて

- 同梱していたヘルプを廃止して、PDF マニュアルを同梱しました。
ヘルプを廃止したことにより、メニュー、ダイアログ等からヘルプの呼び出しができなくなりました。

7.クライアント出力からサーバ出力への移行

この章では、クライアント帳票出力機能を利用したシステムをサーバ帳票出力機能へ移行する場合の注意事項について説明します。

7.1 クライアント製品からサーバ製品への移行時の注意事項

7.1.1 対象製品

OSの違いやシステム規模の拡大により、実行環境をクライアント製品からサーバ製品へ移行する場合の注意事項について説明します。対象となる製品を表 7-1 に示します。

表 7-1. 移行製品

バージョン	クライアント製品	バージョン	サーバ製品
V4/V5/V7	EUR Viewer EUR Professional Edition	V11	Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Enterprise Hitachi Report for SVF Series / EUR Server Standard
V8/V9	uCosminexus EUR Viewer uCosminexus EUR Designer		

7.1.2 帳票のプレビュー機能について

- クライアント帳票出力では帳票をプレビューできますが、サーバ帳票出力機能にはプレビュー機能はありません。
PDF形式やEPF形式（独自形式）のファイルに出力してから、プレビュー確認をしてください。

7.1.3 帳票定義ファイルの互換性について

(1) 帳票定義ファイルの保存形式について

- V4～V10で作成したフォームシートファイル(*.fms)は、V11のサーバ帳票出力でそのまま使用できます。
- V4で作成したレポートファイル(*.agr)は、サーバ帳票出力では使用できません。
フォームシートファイル(*.fms)に保存し直してください。
保存し直す場合の注意事項は「6.2.2 帳票定義ファイルの互換性について」を参照してください。

7.1.4 起動インタフェースの互換性について

(1) 起動インタフェースについて

- クライアント帳票出力機能とサーバ帳票出力機能では起動インタフェースが異なり、互換性はありません。
サーバ帳票出力の起動部品を呼び出すようにプログラムを修正する必要があります。

表 7-2. 起動インターフェースの差異

クライアント製品	サーバ製品 (Windows 版)
コマンド起動 (apgrpt.exe)	コマンド起動 (eurpmc.exe)
OLE オートメーション	ActiveX 起動部品
OCX	COBOL 起動部品
DLL インタフェース関数 (Visual C++対応)	Java 起動部品
DLL インタフェース関数 (Visual Basic 対応)	

- クライアント帳票出力とサーバ帳票出力では、帳票定義ファイル (*.fms) や画像ファイルなど使用するファイルの格納場所や指定方法も異なります。
サーバ帳票出力機能に合わせて配置してください。

(2) 帳票出力時の警告について

- クライアント帳票出力では、表 7-3 に示す要因によって帳票に正しく出力されない項目があっても正常終了しますが、サーバ帳票出力では警告とみなし、終了コード 4 (警告) を返します。警告が発生する場合は、帳票定義ファイル(*.fms)を見直して、正しく出力されていない項目の修正をおすすめします。

表 7-3. 終了コード 4 (メッセージ ID : KEEU300-W) を返す警告要因

項番	警告要因
1	文字アイテムのアイテム枠が小さいため、指定したデータがアイテム枠内に収まる分だけ出力されました。
2	数値アイテムのアイテム枠が小さく、指定したデータがアイテム枠内に収まらないため、データが「***」で出力されました。
3	バーコードアイテムのアイテム枠が小さいため、バーコードが出力されません。
4	フィールドのデータ型に合わないデータを入力したため、データが欠損値 (空白) で出力されました。
5	画像ファイルがない、サポートしていない画像ファイルである、または画像ファイルが壊れたため、画像データが出力されません。
6	指定した帳票ファイルが、上位バージョンの機能を使用して作成されているため、実行時のバージョンで出力できる範囲で帳票が出力されました。
7	バーコードデータに使用できない文字、または誤った桁数を指定したため、バーコードが出力されません。
8	集計行のアイテムが表示できない位置に配置されているため、出力されません。
9	指定した置き換え表ファイルに、置き換えデータが 1 件も登録されていないため、出力されません。
10	指定した置き換え表ファイルにキーデータがないか、または不正なデータが指定されているため、出力されません。

- サーバ帳票出力で警告が発生しても、帳票はクライアント帳票出力時と同等に出力されます。警告を通知せず、正常終了とする場合は、サーバ帳票出力機能の環境変数「EURPS_REPORT_WARNING」に「NO」を指定してください。「NO」を指定すると、警告要因があっても終了コード 0 (正常終了) を返します。

7.1.5 移行後の注意事項について

(1) 文字幅計算方法について

- V7 以前の帳票作成機能で作成した帳票を V11 で出力する場合は、文字幅計算方法を静的モード(デフォルト)で出力してください。動的モードで出力した場合、フォントの印字や表示の位置が異なる場合があります。

(2) 出力結果の確認について

- サーバへの移行後、出力テストを実施してください。OS やプリンタドライバなどの変更により、印字結果などの“見た目”に影響が生じる場合があります

以上